

# 官民連携型人材育成普及実証研究事業

CIP～コミュニティ人材・インキュベーションプログラム

平成23年3月

合同会社 場所文化機構

## 目 次

序. 本事業実施の背景と目的	1
1. 本事業実施の背景	1
2. 当該事業の目的	2
3. 事業スケジュール	3
4. 実施体制	3
I. C I Pの仕組みとC I Pが行う人材育成方法（概要）	4
1. アイディアと地域内の人材を育成する仕組みとしてのC I P	4
2. C I Pの概要	4
3. C I Pの人材育成方法	6
II. 実証研究の対象とした地域の概要	9
1. 対象地域と地域側の実施団体	9
2. 対象となる地域の特性	9
III. 地域実証研究活動～高崎地域のC I P事業の内容と平成 22 年度の活動	14
1. 高崎地域におけるC I P事業の内容	14
（1）地域の課題とその解決に向けたターゲット	14
（2）事業コンセプトとミッション	15
（3）事業の基本構造	16
（4）参考：有限責任事業組合高崎C I Pの設立について	17
2. 平成 22 年度の高崎C I P活動報告	18
（1）高崎C I Pメンバーの概要	18
（2）平成 22 年度実施プログラム	19
（3）平成 21 年度高崎C I P活動実績	21
IV. 地域実証研究活動～宇和島地域のC I P事業の内容と平成 22 年度の活動	40
1. 宇和島地域におけるC I P事業の内容	40
（1）地域の課題とその解決に向けたターゲット	40
（2）事業コンセプトとミッション	40
（3）事業の基本構造	41
（4）参考：有限責任事業組合宇和島場所文化創造機構 （U C I Pの運営母体）の設立について	42

2. 平成 22 年度の U C I P 活動報告	43
(1) U C I P メンバーの概要	43
(2) 平成 22 年度実施プログラム	43
(3) 平成 22 年度 U C I P 活動実績	45
<b>V. 本年度の活動を踏まえた成果と課題の分析</b>	<b>62</b>
1. 成果や課題等の評価や分析手法、とりまとめにむけて	62
2. 今年度の活動を踏まえた成果分析	64
<b>VI. 今後に向けて</b>	<b>67</b>

# 序. 本事業実施の背景と目的

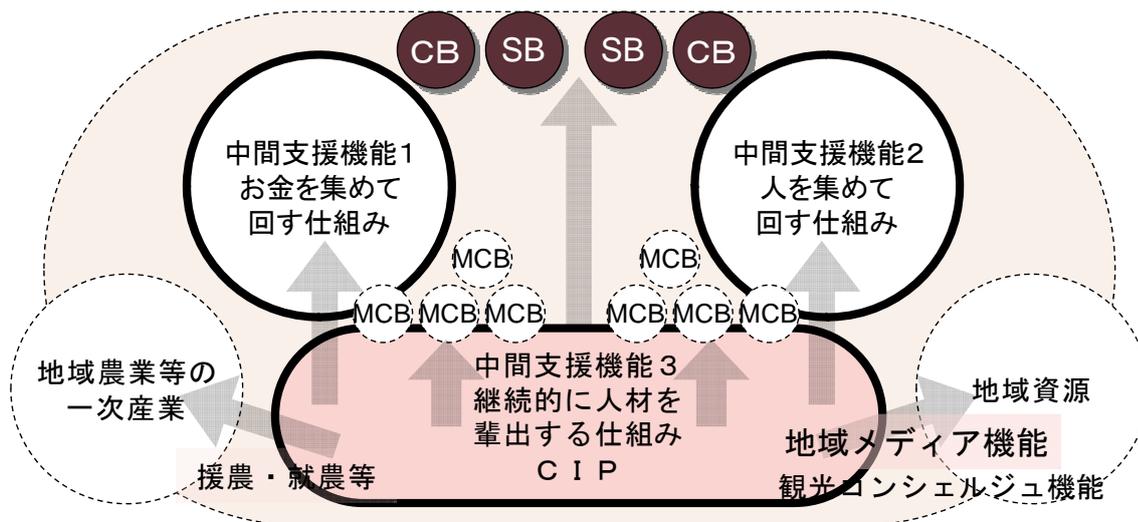
## 1. 本事業実施の背景

場所文化機構（以下、本機構という。）は、平成 15 年から活動を開始している場所文化フォーラムを母体として設立した地域活性化の活動を目的とする組織であり、平成 20 年度よりコミュニティビジネス（以下、C Bという。）やソーシャルビジネス（以下、S Bという。）を創出・支援する機能を強化する事業を実施してきた。

本機構が考えるC B等の支援機能とは、C B創出のノウハウ等の提供だけではなく、同時に、人材の育成機関でもありと考えている。こうした活動を継続することによって、地域全体で、C B創出・育成の支援していく仕組みを構築することをサポートしてきている。

継続的にC B・S Bを創出するための地域に必要な機能として以下の3つを掲げている。

図表序－1 地域に必要な中間支援の仕組み



- ①お金を集め・回す仕組み（市民ファンド・地域ファンドの構築）
- ②人を集め・回す仕組み（屋台ストリート形成、食関連コミュニティの場の創出）
- ③人材育成の仕組み（コミュニティ人材・インキュベーション・プロジェクト～C I P）

③の人材を①と②と連動させ、地域のさまざまな活動に関わり、屋台等の管理運営、C B・M C B（マイクロコミュニティビジネス：主婦層やシニア層が自分の趣味や特技を生かして小さなお金を生み出すようなC B）、農・林・水産業、地域メディア、観光などの起業等を支援しながら地域人材の育成を図る。これは個人のC B事業化力を養う実学機関であり、C Bの種を苗化する人材のタンクであり、同時に、地域の共通利益のための「共（ソーシャル）」の取り組みを行う民間の新たな公共事業体（地域のC B事業化力）の創出を目指している。

本官民連携型人材育成普及実証研究事業（以下、当該事業という。）においては、当該事業が希求す

る「地域資源の発掘、再生、創造のための重要な基盤的要素である人材力の強化」に合致していることから、前述の3つの機能の中の人材育成の仕組みであるコミュニティ人材・インキュベーション・プログラム～CIPについて、地元行政機関（市役所）と連携しCIP活動を展開している群馬県高崎市、愛媛県宇和島市での活動を対象に実証研究を進め、その成果や課題を整理する。

注1：CB（ソーシャルビジネス（SB）の意味も含まれる）

地域の課題解決や、地域資源の発掘・活用などをビジネスチャンスとして捉え、主に地域住民等が主体となって、①地域活性化や社会貢献と②事業の自立・持続発展の双方を実現しようとするビジネス。

※ビジネスである以上、自立的・持続的に活動していくために必要なビジネスモデルの構築、事業マネジメント・経営・組織管理等の能力を兼ね備えていることが必要とされ、単なるボランティア活動を主とするものや、その収支構造が専ら行政等の委託・助成に依っているものは除く。

※主な活動領域例としては、まちづくり、地域資源活用、教育、子育て支援、介護・福祉、環境など

注2：中間支援機関

SB/CB事業者支援のため、協働可能な機関やメンターとのネットワークを有しており、人材、資金、起業や経営のノウハウ（持続可能なビジネスモデルの構築、地域におけるネットワーク構築、マーケティングなどを含めた事業マネジメント、組織管理等）、その他必要な情報や人脈を直接又は仲立役として間接的にSB/CB事業者提供する機関

## 2. 当該事業の目的

（1）実際のコミュニティビジネスの創出と、その実践を通じた担い手となる人材育成環境の整備

地域の中で、地域に寄与するビジネスを生み出したいと考える住民を対象に、実際のコミュニティビジネス立ち上げの現場を提供し、そこが育成の場になり、その成果として人材が地域の仕事に関わる意味や意義を見出し、実践ノウハウを身につける。それだけでなく、地域の事業者と一緒に、地域の中に実際のコミュニティビジネスを生み出していく。

（2）地域特性に合わせたCIP事業の環境整備

本機構において重視していることは、単に本機構が構築したノウハウを移転するのではなく、地域の特性や課題、地域の気質や実際に関わる地域の人たちの性質、地域資源等を考慮しながら、その土地その土地の独自のプログラムを構築していく。当該事業においては、地域特性の全く異なる群馬県高崎、愛媛県宇和島の2地域において、それぞれの地域特性に応じたCIP事業の作り込みやその展開についても検証、課題を整理する。

（3）行政側の意識の醸成

対象としている高崎市役所、宇和島市役所の職員に対し、本プログラムへの参画（CIP組成、ミーティングや一部のプログラム）を通じて、地方公共団体に対しても「地域資源の発掘・再生・創造」するためのノウハウや必要な広域ネットワークを、経験や現場体験を通じて「意識改革」、「真の意味での民間と公共との連携方法の構築」、「他地域間のネットワーク構築」を実現していく。

### 3. 事業スケジュール

概ね、以下の通り実施した。

図表序-2 事業スケジュール

	6月・7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
CIP事業の実証研究(2地域)	→								
実証分析	諸条件整理・目標設定 →			分析 →					
報告書のとりまとめ								→	
分析・とりまとめに向けたミーティング (東京開催)	○			○			○		○

### 4. 実施体制

当該事業は、本機構の職員4名で実施した。

#### 【実施体制】

氏名	主な役割	所属組織・役職等
吉澤保幸 (プロジェクトリーダー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業総括／進捗管理</li> <li>・宇和島地域担当</li> <li>・プログラム作成・実証研究実施</li> <li>・評価分析</li> <li>・報告書の作成</li> </ul>	LLC場所文化機構副代表
後藤健市 (副プロジェクトリーダー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高崎地域担当</li> <li>・プログラム作成・実証研究実施</li> <li>・評価分析</li> <li>・報告書の作成</li> </ul>	LLC場所文化機構代表
本木陽一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高崎地域担当</li> <li>・プログラム作成・実証研究実施</li> <li>・評価分析</li> <li>・報告書の作成</li> </ul>	LLC場所文化機構社員
白岩聖子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇和島地域担当</li> <li>・プログラム作成・実証研究実施</li> <li>・評価分析</li> <li>・報告書の作成・校正、チェック</li> </ul>	LLC場所文化機構社員

# I. C I Pの仕組みとC I Pが行う人材育成方法(概要)

---

## 1. アイディアと地域内の人材を育成する仕組みとしてのC I P

C BやS Bを地域の中で継続的に生み出すため必要なことの一つに、C BやS Bの種（アイディア）とそれを実施する人物のマッチングがある。現状は、人物の“やる気”の高さだけが過大評価される傾向があり、事業に対する適性を見極めていないため、せっかくのアイディアややる気のある人材を無駄にしているケースが少なくない。人材の育成もC B・S Bの起業も、その種（アイディア）を直播していきなり肥料や水をやる方法では芽が出る確率は決して高くない。より確実に芽を出させるには、種をいきなり畑に蒔くのではなく、まずは苗まで育てるS E E D B E D（苗床）機能が必要であり、その機能を有するC I P（Community-talent Incubation Program / コミュニティ人材育成プログラム）が必要だと考えた。

ここに所属する人材は、C B・S Bの種の苗化作業に現場でしっかりと関わりながら、事業に関する知識やノウハウ、さらには人脈を蓄積するとともに、自分が「やりたいこと」と「やれること」の違い（能力と適正）を見極め、自分が進んでいくべき方向を確認することができる。

## 2. C I Pの概要

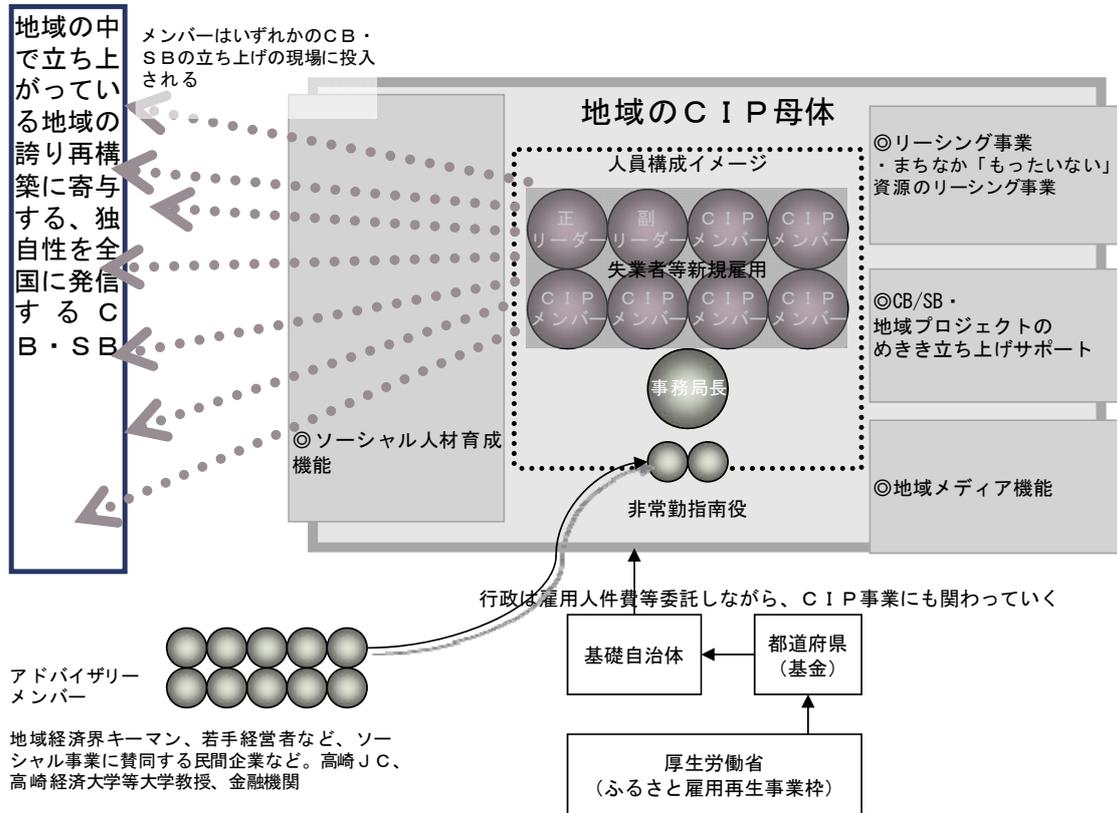
C I Pとは地域の中でC BやS Bが芽生え、苗に成長するまで責任をもって育成する場であるが、具体的にどのようなものかという点、C BやS Bを起業したいと考えている人を雇用し、今まさに地域の中で立ち上げようとしているC B等の現場に入り、手足となって働くことを通じてノウハウや人脈等を形成しながら自らも地域に起業する力を実践を通じて得ていくというものであり、力がつけばC I Pから卒業し、起業していくというものである。

人を雇用するための財源としては、現在のところ厚生労働省のふるさと雇用再生事業を活用し、基礎自治体からのコミュニティビジネスを創造するための人材育成事業としてC I P運営母体が受託している。これは一時的な雇用を生み出す救済策ではなく、制度が終了した後もこれを契機に、小さくとも地域の中で継続的に雇用を生み出す仕組みを考え出す必要があるのではないかと問題を提起し認められたものである。今回のふるさと雇用再生事業は平成23年度までの時限の制度であるが、この制度が無くなった後も、C I Pを運営するための財源の獲得方法や仕組みをC I P活動の中で模索している。

C I Pの組織については、前述の通り基礎自治体から事業を受託したり、人を雇用したりするため法人化する必要があるため、現在C I Pを進めている高崎市や宇和島市においては、どちらもC I Pの主旨に賛同した地元の事業者等有志で有限責任事業組合（LLP）を設立している。

ふるさと雇用再生事業を活用しているため、雇用については失業者の方々を基本に、地域の仕事や起業したい、新しいビジネスを起こしたいという地域の人たちを募集し、雇用していくという形態である。

図表 I - 1 C I P のスキームイメージ



また C I P の機能としては、人材育成機能だけではなく C I P 自身の運営を自立化していくため、また継続的に C B や S B を生み出すための機能を加え以下の 4 つを想定した。

○ソーシャル人材育成機能

地域内のさまざまな事業（仕事）に関わることでその仕事のノウハウを身につけ、地域の人に触れながら自分自身の能力を向上させていく。また、それらの活動（経験）を通して自分がやりたいこと、自分がやれること（意志と適正）を見極め、次のステップである地域内での自らの起業（C B ・ S B 創出）・就職へとつなげていく。

○C B / S B ・地域プロジェクトのめきき立ち上げサポート機能

既存のビジネスの「もったいない」や「困っている」の補助、また、地域内の資源を活かした新たな C B や S B のアイデア（個人の思い）をサポートし、具体的なトライアルを行うことで実際の起業への道を拓いていく。

○メディア機能

地域の様々な資源発掘し、目利き、編成・コンテンツ化・発信するローカルメディアを運営する。東京等のまっとうなメディアとも連動し、質の高いコンテンツ発信を目指す。

○リーシング機能

地域内のもったいない資源（文化財、使われていない建物等）を質の高い空間（カフェ・ホテル・オーベルジュ、コミュニティスペース等）に再生し、リーシングを行い、将来的には C I P の収益源に繋げていく。

### 3. C I Pの人材育成方法

#### (1) C I Pで実施する人材育成のねらい

##### ○地域固有の個性の確認

地域の独自性、他地域では代替できない個性を地域住民が再認識する。地域を誇りに思えること、それこそが地域の持続、担い手の形成・輪廻の生命線であり、地域を元気にする原点となる。

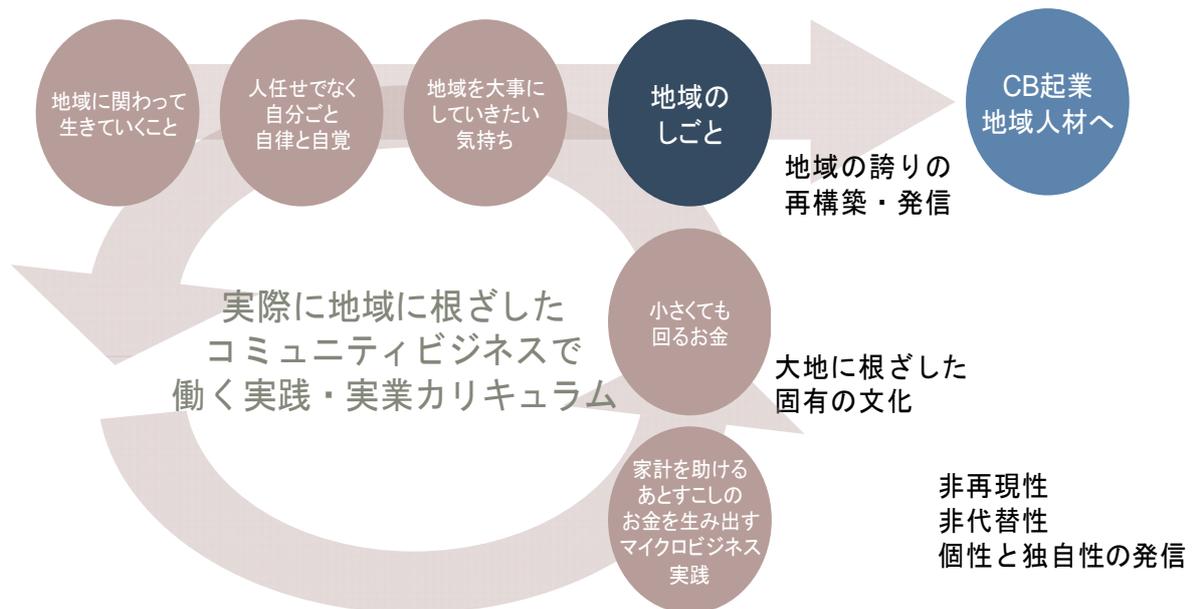
##### ○地域と連動したソーシャルな仕事の創出

その実現に繋がっていく仕事、自分の生き様や生き甲斐と連動した仕事、自分たちが活かされている地域を大事にするための仕事、地域の個性を生かした仕事を創出する。

##### ○人材を育成する教育プログラム

C I Pは、そうした仕事を実践するための苗床機能（さまざまなビジネスシーズを苗に育てる）であり、仕事に必要な心構えや考え方、人脈、ノウハウ、楽しみ方、生き方を実地で体験（働くこと）を通して学んでいく実践学習プログラムである。

図表 I - 2 事業の狙い



#### (2) C I Pが考えるコミュニティビジネス及びコミュニティ人材

##### ①コミュニティビジネスとは

- ・コミュニティビジネスとは、地域の課題解決に寄与するビジネスと規定（経済産業省HPより）されているが、地域の課題の根幹はいかに人が幸せに暮らせるかであり、私たちの子孫が永劫この地でいかに幸せに暮らしていけるかだと考えます。
- ・そのためには、地域を担う人材の輪廻をどう創り出していくかが重要であり、地域を担いたいと思えるだけの地域に対する誇りをいかに再構築するかが重要となります。

- ・C I Pではこの地域の誇りを再構築、再認識することに寄与する事業こそ、C Bの根幹であると考えます。
- ・地域の誇りとは、ここだけにしかないかけがえのない個性であり、代替できない、再現性のない大地と時間の質を見つめ直すことに、C Bのヒントが隠されていると考えています。

## ②コミュニティタレントとは

- ・コミュニティタレントとは地域で活躍する人材、上記C Bで働く人、その他地域のためになることを生業としている人材すべてを指します。
- ・今の時代だからこそ地域で必要とされるノウハウやスキルを持ち、人と人との関係をベースとした地域のコミュニケーションを高めるあらゆる地域の仕事に従事する人材の輩出を目指します。

※上記は、雇用するC I Pメンバーに初めて会う面談の際に配布する資料の一部であるため、本報告書においても原文のまま掲載する。

## (3) 実施内容

C I Pの人材育成に向けたプログラムとしては以下を実施した。各地域によって環境等が異なるため、詳細のプログラム・スケジュールについては地域別に独自に作成し実施している。

### ①コミュニティビジネス立ち上げ・運営ノウハウを獲得するためのプログラム（実地研修）

#### ○個別事業（C B）のサポート

地域の事業者が立ち上げるC B立ち上げの現場をサポートする。また必要な場面でメンバー間で互いのC Bの現場の立ち上げもサポートする。

#### ○C I P自主事業（C B）への参加

C I Pが地域活性化を目的に立ち上げる活動をサポートする。現況では、共通して観光コンシェルジュ事業、地域メディア事業等を立ち上げる。

### ②意識改革・自意識を情勢、意識を共有するためのプログラム

#### ○定期C I Pミーティング

- ・C I Pの使命の確認
- ・各自の起業計画の進捗報告とブラッシュアップ手法の検討
- ・研修先事業の課題と対処方法

#### ○C I Pメンバー研修先現場見学会

- ・C I Pメンバーの研修先に行き、担当者並びに預かり責任者から話を聞き、コミュニケーションを図る（コラボが生まれる可能性がある）。

#### ○講師招聘

- ・C I P事業に役立つ様々な知見を持つ者を講師として招聘し、講師から実体験に基づくレクチャーを頂く。

- ・講師としては、以下のような内外様々な方々を想定している。

地元の農業者、商業者、工業者等

他地域のまちづくり実践者

官僚

C B先駆者

産直事業者

建築家・デザイナー

飲食事業者 他

### ③広域的ネットワークを構築するためのプログラム（集合研修）

○地域の魅力を発信している他地域の先進事例現場への研修（東京他）

- ・ 中心市街地活性化先進地
- ・ 農業と都市生活者を結ぶ仕組みを持つ地域
- ・ 農業観光、自然観光実践地
- ・ 質の高い地域の場所づくりを行っている地域 他

○場所文化機構、場所文化フォーラム関連イベントの参加（東京、各地）

- ・ とかちの・・・やにつぼんの・・・等で開催されるイベントへの参加等
- ・ 場所文化機構等が企画する場所文化ツアーへの参加等

## Ⅱ．実証研究の対象とした地域の概要

当該事業においては、本機構がC I P事業を企画立案し、組織組成、事業の立ち上げ、運営のサポートをしている群馬県高崎及び愛媛県宇和島の2地域を実証研究の対象とした。

### 1. 対象地域と地域側の実施団体

本機構メンバーも組織の一員として入りながら以下の組織体を組成し、C I P事業を実施。

	CIP(コミュニティ人材・インキュベーション・プログラム)実施団体	連携している官(地方公共団体)
高崎	LLP高崎CIP ・H21年設立、H21年8月より活動開始。平成22年度は2年目の段階にある。9名雇用し、地域の商業者や農業者等が行う様々なCBの立ち上げをサポートしながら学んでいる。 ・CIPの主旨に賛同し、これまでのJC等を通じて地域活性化に寄与する活動をしてきたメンバー3名が本組織の組合員となり、指導、運営を行っている。	高崎市商業課
宇和島	LLP宇和島場所文化創造機構 ・H22年2月設立。H22年4月活動開始。5名雇用し、木屋旅館再生事業や古民家再生等の立ち上げをサポートしながら学んでいる。 ・CIPの主旨に賛同し、商工会議所等を通じて、地域活性化に寄与する活動をしてきたメンバー4名が本組織の組合員となり、指導、運営を行っている。	宇和島市商工観光課

※LLP：Limited Liability Partnership(有限責任事業組合)の略で、事業を目的とし、組合契約を基礎に形成される企業組織体

### 2. 対象となる地域の特性

当該事業の対象地域として選出した2地域の環境条件は以下の通りである。

これらの自治体は、商店街の衰退や商店街等の後継者不足、外から人を呼ぶ観光振興がうまく機能していないという共有の課題をもつ。一方で、地理や人口規模の特性は大きく異なる。こうした異なる地域で、今後他地域にこの仕組みを移転する際に実証研究をすることは大きな意義があると考えられる。

## 高崎市

### 位置図



### 基本特性

広大な関東平野の北端に位置する、群馬県を代表する都市。

平成 18 年に倉渕村、群馬町、新町が、平成 21 年には吉井町が高崎市に合併。

○面積：459.41 平方キロメートル

○人口：375,197 人 (H23.2 末)

(男 152,653 人、助成 190,414 人)

○交通アクセス

東京から約 90 km 圏、新幹線で東京－高崎間約 1 時間、上越新幹線、長野新幹線等 6 つの鉄道路線が交わる高崎市は県内一のターミナル駅、関東自動車道、北関東自動車道などの高速交通網も整備され、「交流拠点都市」としての機能が高まっている。

### 主産業の現況と課題

#### ○商業

古くは集客力の高い商業都市としてさかえ発展してきたが、近年は商業者の経営者不足、ロードサイド上への専門店・大型 S C の進出により商店街の活力が失われている。

#### ○工業

東京と日本海を結ぶ拠点としての利点を生かし高い工業集積を誇ってきたが、近年、長期低迷を背景とした企業の経営合理化等に伴い、工業を取り巻く環境は厳しい状況にある。

#### ○農業

農業従事者の高齢化や後継者不足などに伴う遊休農地の増加や価格の安い輸入農産物等の競争により、情勢は年々厳しくなっている。

#### ○観光

高崎市においてはこれまで観光という側面は力を注いでこなかったが、平成 18 年度以降の合併を契機に市の地域資源が増えたことをきっかけに、また市内ホテルに 1500 人／日のビジネスマンが宿泊するという潜在需要を観光につなげるべく、現在観光振興に尽力している。

### 地域の気質や歴史等 (<http://www.jplocal.com> から抜粋)

#### ○歴史上の特徴

城下町として、陸上・河川交通や商業も発達し、江戸時代には「お江戸見たけりゃ高崎田町」と言われるほど栄えた。

#### ○気質・土地柄

熱しやすく冷めやすい上州人特有の気質。昔から「上州名物、かかあ天下と空っ風」という言葉がある通り、女性はよく働きしっかりとした意志を持つ優しい気質。

○イベント・祭り

高崎映画祭、高崎まつり、高崎音楽祭、高崎マーチングフェスティバル、えびす講市、光のページェント等、行政主体ではなく、市民や事業者が主体となったイベントが数多くある。

○特産品

高崎だるま、梅、うどん等

近年生み出されている地域活性化の動き（本機構がサポートしており、CIP事業とも関係が深い事例）

<p><b>高崎</b> 高崎田町屋台通り 高崎市街地中心部に賑わいの必然性をつくるプロジェクト</p>	
<p>必然性を失った旧市街地において、民間と地域金融機関が共同で、旧市街地である高崎田町の必然性を組み直そうとする、上州地産地消をテーマとした複数屋台飲食店舗通りを創設。</p>	
<p>場所の位置</p>	<p>事業構造と事業費</p>
 <p style="text-align: center;"><b>高崎市街地 旧上州銀行本店前 中山道高崎田町</b></p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>LLC高崎食文化屋台(ファンド) ← LLP高崎食文化屋台通り(運営組織)</p> </div> <p>出資金額</p> <p>しのめ信金: 1,000万円 民間有志(20名): 2,000万円 場所文化機構: 50万円</p>

・ 地域を映すメディア物語 ・

# 高崎田町屋台通り オープン!

高崎田町通りに突如出現した「高崎田町屋台通り」。中山道恋文横丁の別名を持つ、地域活性化のための一大プロジェクトだ。今月11日にグランドオープンした屋台通りを歩いてみれば、なんとも懐かしい、人と食とが触れ合う喜とにおいに包まれていた。



## 宇和島市

位置図	基本条件
	<p>宇和島市は愛媛県西南部に位置し、西は宇和海に面し、入り江と半島が複雑に交錯した典型的なリアス式海岸に面している。南伊予の中心都市。</p> <p>平成 17 年に吉田町、三間町、津島町が宇和島市と対等合併</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○面積：469.47 平方キロメートル</li> <li>○人口：86,243 人（H23.3.1） （男性：40,267 人、女性：45,976 人）</li> <li>○交通アクセス</li> </ul> <p>県庁所在地の松山市から約 95 km、車及び電車で約 1 時間 30 分。JR 予讃線と JR 予土線があり、松山方面と高知方面に結ばれており、2 路線の結節点である。また、四国横断自動車道（宇和島北 IC～西予宇和 IC／平成 23 年供用目標）や宇和島道路の整備により広域的な交流拠点としての発展が期待されている。</p>

主産業の現況と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業           <p>温暖な気候と傾斜地が多い地形、内陸部の盆地という地形を利用し、果樹栽培、稲作等の農業は基幹産業として発展。</p> </li> <li>○水産業           <p>西部一帯に広がる恵み豊かな宇和海を生かし、水産業の街として発展。約 50 の漁港を有し魚鮮漁業、鯛・ハマチ等の養殖業、真珠や真珠母貝の養殖が盛んに行われているが、現在の出荷額や販売額等はピーク時と比較すると半減している。</p> </li> <li>○商業           <p>古くから商業中心地として発展し、宇和島地区中心部には 7 商店街をはじめ、12 にのぼる商店街が形成されている。しかし、高速道路等の整備により松山市等に消費が流出している他、郊外の国道沿い等への大型店やロードサイド店への消費流出が著しい。商店街の閉店やシャッター化が目立つ状況にある。</p> </li> <li>○工業           <p>縫製、食品加工、真珠加工、木製品製造などの伝統的な地場産業と、自動車製造等の誘致企業によって構成されている。社会経済が低迷している中、事業所の撤退や縮小が進み、事業所数、従業者数、出荷額等いずれも減少傾向にある。</p> </li> </ul>

地域の気質や歴史等（ <a href="http://www.jplocal.com">http://www.jplocal.com</a> から抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史上の特徴           <p>宇和島城を中心とした城下町として発展。現在も伊達家ゆかりの文化財等が数多く残っている。</p> </li> <li>○地域の特徴           <p>城山を中心に、南には宇和海に面したリアス式海岸が広がっており、日振島・沖の島などの美しい</p> </li> </ul>

海岸環境をもつ。一般的に宇和島は海のイメージが大きいものの実は城ヶ城山等緑環境も豊富である。

○気質・土地柄

人あたりが柔らかく、総じておっとりしている。

○祭り、イベント

宇和島牛鬼まつり、パールフェスティバル、この他に、夏には勇壮な和霊大祭、秋には地域独自で秋祭り等を行っている。

○特産品

みかん、タイ、ハマチ、真珠、じゃこ天、かまぼこ等

近年創出されている地域活性化の動き（本機構がサポートしており、CIP事業とも関係が深い事例）

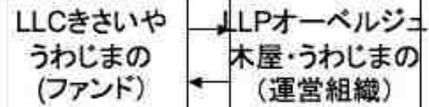
**宇和島 木屋旅館再生オーベルジュ事業**

司馬遼太郎が愛した宇和島の老舗旅館を再生、地域の記憶を呼び戻すまちなか再生事業

場所の位置

事業構造と事業費

**宇和島市街地  
本町追手**



出資金額

ガイヤファンド: 2,000万円  
民間有志(20名): 2,000万円  
場所文化機構: 50万円

取得=市  
修復=市および民間  
運営=民間



# Ⅲ. 地域実証研究活動～高崎地域の C I P 事業の内容と平成 22 年度の活動

## 1. 高崎地域における C I P 事業の内容

### (1) 地域の課題とその解決に向けたターゲット

高崎市においても地域振興上多くの課題をもっているが、高崎 C I P においては、コミュニティビジネスの創出やその人材育成を通じて、「高崎市の街として中心性の低下」という課題に絞り込んだ。

高崎市の中心市街地は都市計画が進んでおり、ハード面は人口 37 万人都市として十分に整備されているが、その一方で昼夜間問わず街中に人がおらず、空き店舗も目立っている。

高崎 C I P を構成し指導側のスタッフである組合員は現在四十代であるが、彼らが十代の頃とは賑わいが全く変わってしまったと言う。しかし、高崎祭やマーチングフェスティバルなどのイベントの際は数十万人規模で街中に人が押し寄せる。

こうした点から、人がいないわけではなく街中に来る必然性が無いから人が来ないということ、合併で人口が増えても、郊外の人たちは高崎市の中心市街地を自分たちの場所とは思っていないということを確認し、高崎 C I P においては以下のように地域課題とその解決に向けたターゲットを設定した。

わたしたちが考えるととても重要な高崎の課題とは

- 高崎という地域を担う人材の育成、担いたいと思う地域への誇りの再構築
- 市民一人一人が楽しく、豊かに、責任と覚悟を持って暮らしていく意識の醸成

地域の課題解決に向けたターゲット

- 高崎の顔、玄関口である「まちなか」の活性化（＝地域の誇りの再構築）

まちなかの活力低下の要因は高崎全体にとっての「まちなか」になっていないこと



郊外に住む市民や農村にとっての大事な場所、プライドを放つ場所、思い入れのある場所になっていれば、人がそこに来る、そこに関わる必然性を持ち、「まちなか」としての必然性、中心性が再構築できる

## (2) 事業コンセプトとミッション

### ①事業コンセプト

高崎C I Pの事業コンセプトは「郊外とまちなかを紡ぐCBを担う人材育成」とした。このコンセプトに絞った理由は、地域の根本的な課題の解決に寄与し得るという可能性があり、また、このC I Pの機能自体が起業家輩出装置として自立的にまわっていくビジネス性を持ち得る分野であると考えたからである。

郊外とまちなかを紡ぎ直し、人の思いを交錯する

まちなかに郊外・農村にとってのプライドとなる場を作る

そこに地域課題解決に寄与するCB創出の可能性が見いだせる

それは効率性や合理性とは対極を成す、時間の質を楽しむCB



まず第一歩として、地域の誇りの再構築に資する、

**郊外とまちなかを紡ぐCBを担う人材育成  
(CB現場実践業務)** を事業コンセプトとして実施する

### ②事業ミッション

高崎C I P全体を通じたミッションは以下の通りである。

使命1 上州・高崎のかけがえのない大地の誇りを再認識・再構築

「農」を楽しみ感謝する心を養います。生活者目線で、C I P全員が農を体験します。

使命2 高崎のまち活性化の様々な取り組みやイベントへの主体的な参画・支援

CB起業に不可欠な人脈形成、信頼の獲得に大きく寄与します。

使命3 プログラム実施メンバーによる自己将来計画の策定

自分の起業の目標と地域の幸せを同期化していきます。

使命4 楽しいことをする

楽しいことを情熱を持ってやっていきます。楽しいことをするための労力は惜しみません。

使命5 上州・高崎の個性・独自性、非代替性、非再現性を発信

上州にしかないこと、高崎でしかできないことを大事にします。それによって必然性を創り出します。

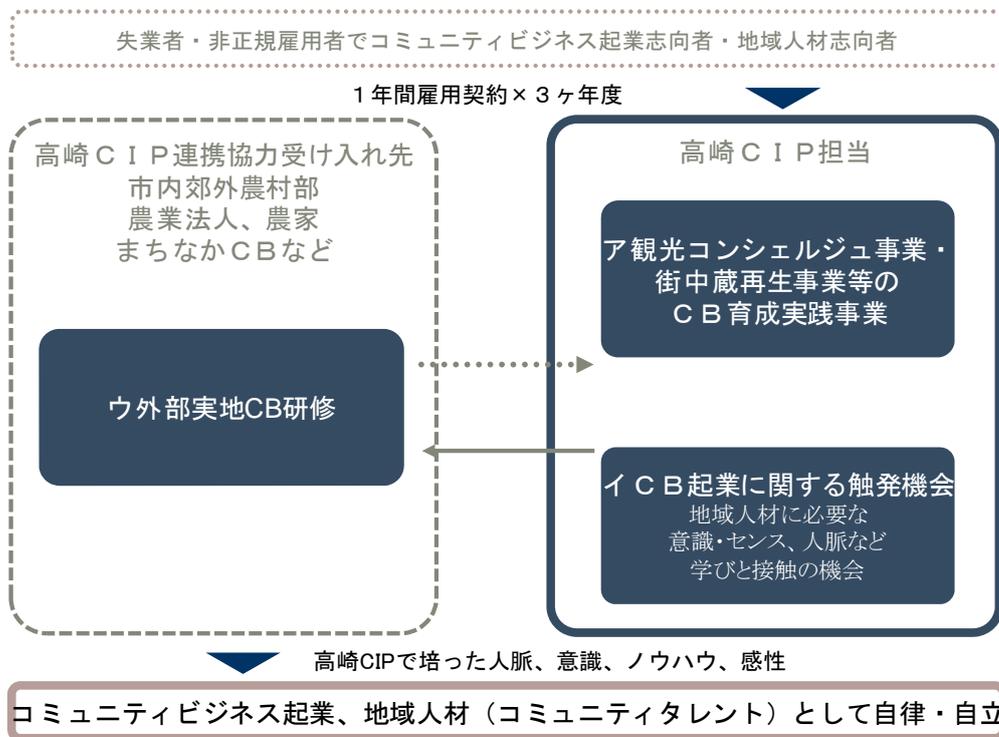
※上記は、雇用するC I Pメンバーに初めて会う面談の際に配布する資料の一部であるため、本報告書においても原文のまま掲載する。

(3) 事業の基本構造

- ①高崎C I P外部連携協力先は、J Cや商工会議所、高崎C I P組合員のネットワークを通じて、農業における新しい取り組み（街中と郊外を結ぶ新たな直販ビジネスや商品開発、物流システム等）に着手していたり、中心市街地の事業者で街中と郊外を結ぶ場所づくり（屋台通り等）をしていたりする事業者を募集し、連携先を決定。
- ②ハローワークを通じて失業者・非正規雇用者を募集。起業の意志があり、より具体的な起業イメージがある者の中で、現在、連携協力先が生み出そうとしているC B内容と合致している者を、書類及び面談により選出（以下、この者をC I Pメンバーという）。
- ③雇用されたC I Pメンバーは、基本的に高崎C I P連携協力先にて実習（下記ウ）しつつ、高崎C I Pが行うC B育成実践事業にも携わり、C B起業に関する触発機会も多いに利用して人脈や意識、ノウハウ、感性を磨いていく。
- ④これらの活動を通じてコミュニティビジネスを起業、もしくはC I Pメンバー自身も起業する準備をしていく。
- ⑤人材育成の評価を自主評価ではなく、行政等も含めて公開することで客観性を持たせ、地域に拓かれた閉じない仕組みづくりを目指している。

図表Ⅱ－1 事業構造イメージ

- ア 観光コンシェルジュ事業・街中蔵の再生事業等のC B育成実践事業（高崎C I P担当）
- イ コミュニティビジネス起業に関する触発機会（高崎C I P担当）
- ウ 外部実地コミュニティビジネス研修（外部の連携C B・地域事業実践先に依頼）



(4) 参考：有限責任事業組合高崎C I Pの設立について

本事業を実施する「LLP（有限責任事業組合（注）高崎C I P）」は、本事業を実施するために平成21年5月に設立した。

コミュニティビジネスの創業を目指す方を支援する「中間支援機関」に求められるものは、コミュニティビジネス中間支援機関を開設・運営するという意欲が最も重要であるが、地域に根ざし、地域社会、地域企業や地域団体との協調が不可欠であり、「有限責任事業組合高崎C I P」は、①既にコミュニティビジネス事業者等とのネットワークを構築していること。②LLPの支援者として高崎商工会議所・商工会の会員が参加しており、地域社会、地域企業や地域団体の信頼度を高める効果が十分期待できること。③既に各地域で中間支援機関として実績を上げている組織が構成員であること。④他に類似する組織や団体が存在しないこと、などの理由からLLP高崎C I Pは市より選出され事業を受託している。

〔組織概要（組織契約書（定款）より）〕

○名称 有限責任事業組合高崎C I P

○事業内容

1. コミュニティビジネス等起業準備・支援事業
2. 地域人材育成にかかる各種事業
3. コミュニティビジネス・地域人材等実地研修事業
4. 地場産業（商業、農業、観光、工業、流通サービス等）活性化支援事業
5. 地域情報収集・編集・発信事業
6. 地域活性化事業
7. 前各号に附帯関連する一切の業務

○存続期間

平成21年5月29日から平成26年5月29日

○出資金

3万円

○組合員

3名（地元の事業者2名及び本機構メンバー1名）

注：有限責任事業組合（LLP）とは

LLP（リミテッド・ライアビリティ・パートナーシップ＝有限・責任・組合）  
有限責任事業組合契約に関する法律（2005年8月1日施行）で制度化  
有限責任 出資者が出資額の範囲で責任を負う  
内部自治原則 収支額に関わらず利益の配分や権限などを自由に定める  
構成員課税 LLPは非課税。利益配分は出資者に直接課税

## 2. 平成 22 年度の高崎 C I P 活動報告

### (1) 高崎 C I P メンバーの概要

平成 22 年度本事業に参画したのは以下の 9 名である。年齢も目的も幅広いメンバーで構成されている。

図表Ⅱ－2 平成 22 年度高崎 C I P メンバー

	属性(性別、年齢 (採用当時))	平成22年度 外部実習先	将来目標/どのようなCBを立ち上げたいか(採用当初)
1	A 女性 32歳	高崎田町屋台通り 運営サポート	・自身が農業の影響で体調を崩したことがあり、それをきっかけに、食に対する意識が変わった。 ・中心市街地で、安全な食材を提供するカフェ&街場の中でも子ども達が育ち、関わられるような託児施設的なものを手がけたい。
2	B 女性 33歳	倉淵自然農法を学 びながら自主農場 立ち上げ・販売	・倉淵村に移住し、有機農法を学びながら、街場の方々に安全な食の提供、高崎の食文化の伝達、街と郊外をつなぐ事業を展開予定。
3	C 男性 40歳	(株)山富士産業の CB立ち上げ(環境 及び農業関連)	・休耕地の再利用、ヒマワリ等を活用したバイオディーゼル燃料の製造試行、街中での利用促進事業の展開。
4	D 男性 32歳	耕しの民のCB立ち 上げ(都市と農村を つなぐ事業及び自 社農地立ち上げ/ 自立に向けて)	・街の消費者に対し、農業生産者の思いや食文化を伝達し、また、街の消費者の声を、生産者に伝達するような事業を模索中。
5	E 女性 28歳	富久樹園のCB立ち 上げ(都市の農村を つなぐ事業) 自主農地立ち上げ 及び起業準備	・食を通じたCBを立ち上げたいと模索中。 ・バン格拉ディッシュでボランティア活動をしてきたこともあり、途上国の人達が、日本にきて、農業や安全な食を育てたりする受け皿になるような事業も考えていきたいとのこと。 ・介護施設に勤務していた経験を生かし、高齢者が農業に関わることによって、元気になっていくことに直面し、そうした事業も具体化していきたいとのこと。
6	F 女性 19歳	すもの食堂立ち上 げ・運営	・高齢者介護に興味があり、そういった高齢者を元気にするような事業を行いたい。
7	G 男性 26歳	高崎田町屋台通り 運営サポート	・中心市街地のにぎわいをとりもどす事業を起こしていきたい。 ・まずは、農村と都市をつなぐ場をつくりたいと思っている。
8	H 男性 29歳	すもの食堂立ち上 げ・運営	・街と郊外をつなぐ、街中を元気にする事業を起業したい。
9	I 女性 22歳	屋台通り個別店舗 立ち上げ	・食育事業、食を通じたCBを立ち上げたいと模索中。 ・自身としては、安全安心な食を提供する飲食業の展開を視野に入れている。

(2) 平成 22 年度実施プログラム

①地域で立ち上げている C B と連携した現場実践事業（メンバーの担当を決めて関わった事業）

以下は、各メンバーが通年に渡り、各外部連携協力先の計画に基づき実習を受けるものである。

ア) 消費者直販果樹栽培 C B ・ 観光農園 C B

＜富久樹園：高崎市里見町＞

ログハウスカフェ等店舗販売ビジネス、クリスマスローズビジネス、観光拠点形成事業などの開発生産・企画運営等現場実践

イ) こだわり有機野菜消費者直販 C B

＜竹淵進氏：高崎市倉淵町＞

群馬が誇る日本有数の農産地であり有機栽培のメッカである倉淵にて、有機栽培手法による農産品等のまちなかでの販売等の現場実践

ウ) 上州一円の旬野菜デリバリー C B

＜耕の民：高崎市箕郷町他＞

- ・群馬名産地の旬の野菜のデリバリー&まちなか販売・飲食事業の企画運営・販売等の現場実践
- ・高齢化による農家の人材不足等を解消する地域課題を解決する事業の立ち上げ

エ) まちなかでの屋台通り立ち上げ C B

＜L L P 高崎食文化屋台通り：高崎市田町＞

- ・地産地消飲食 C B 等の起業育成事業である屋台通りの企画運営・管理等現場実践
- ・おもてなしを重視した屋台事業の立ち上げ、現場実践

オ) エコ農 C B を学ぶ

＜山富士産業：高崎市我峰町＞

ひまわり搾油（バイオ燃料）開発栽培生産供給とまちなかと連動した新エネルギー循環システム、ビオトープ再生事業、連作障害防止事業、棚田再生事業の現場実践

カ) すもの食堂立ち上げ C B

＜ハウトク：高崎市田町＞

- ・群馬にある美味しい農作物を街中で発信する場所づくり実践
- ・野菜直売所、地産地消カフェ、総菜販売等の事業を通じて、郊外と街、人と野菜、人と人をつなぐコミュニティビジネスの立ち上げ、現場実践

②平成 22 年度高崎 C I P 自主事業（メンバー全員が関わった事業）

以下については高崎 C I P が企画し、メンバーが参画し実施した事業である。

ア) 観光コンシェルジュ事業

- ・上州高崎場所あそびの企画運営とそのトライアル

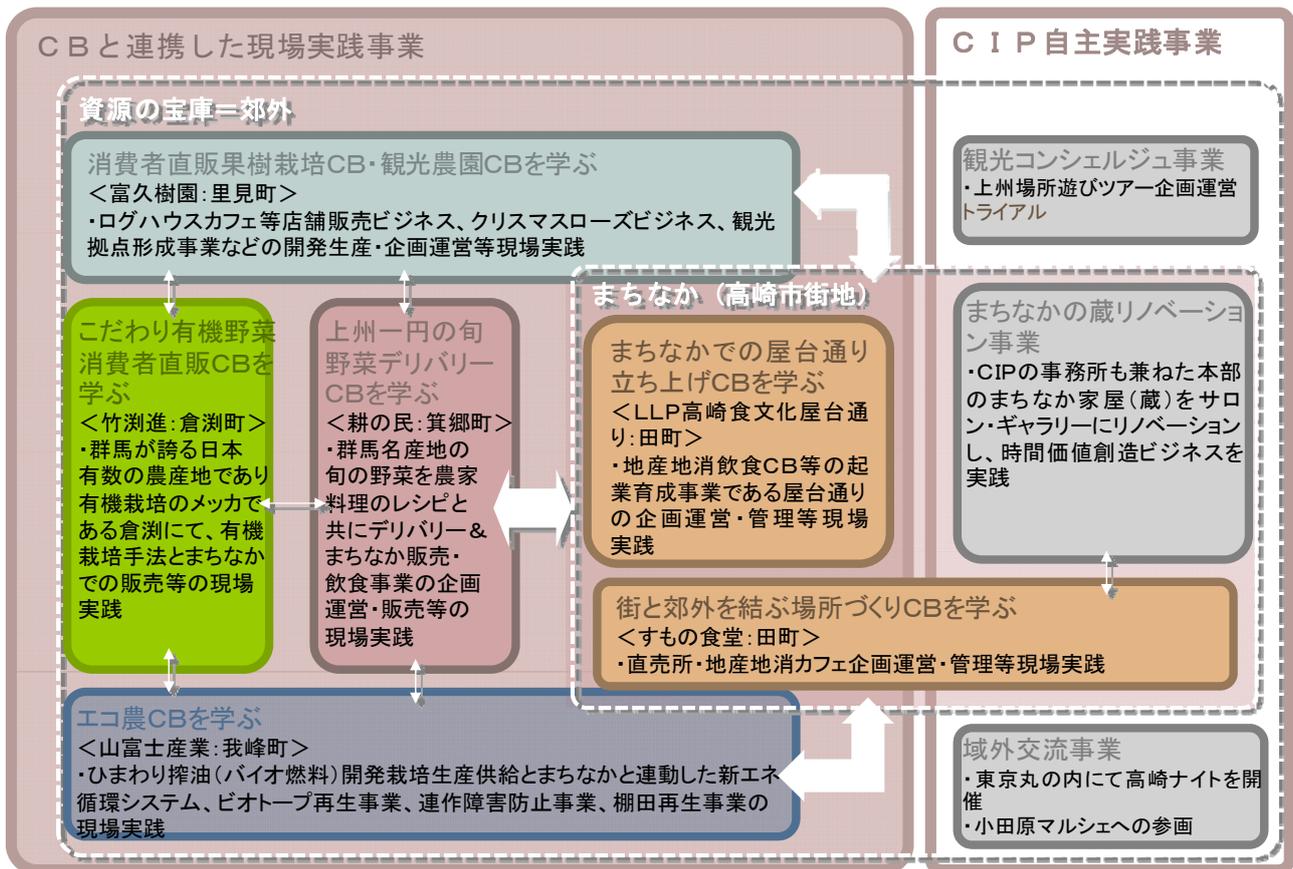
イ) まちなかの蔵リノベーション事業

- ・ C I P の事務所も兼ねた本部のまちなか家屋（蔵）をリノベーションし、時間価値創造ビジネスを实践

ウ) 域外交流事業

- ・東京丸の内の場所文化レストラン「にっぽんの・・・」にて、高崎ナイトを開催
- ・小田原マルシェへの参画

図表 II - 3 平成 22 年度高崎 C I P プログラム



### (3) 平成 21 年度高崎 C I P 活動実績

#### A. 地域で立ち上げている C B と連携した現場実践事業

##### ①消費者直販果樹栽培 C B ・観光農園 C B

<富久樹園：里見町> 担当：E（女性 28 歳）

##### ○サポートしている C B の概要

- ・ログハウスカフェ等店舗販売ビジネス、クリスマスローズビジネス、観光拠点形成事業などの開発生産・企画運営等現場実践
- ・果樹農園、富久樹園の新事業拡大のサポートの実施。富久樹園では顔の見える直販を行っており、更に代表の富沢氏は地元の活性化を考え、旧榛名町に果樹農家を誘いフルーツの里づくりに向け、イベント開催等を行っている。また現在は、地元の新観光名所を作るために、所有する天神山で町の観光案内所と合わせた事業をサポートしている。
- ・現在、個人でも梨の畑 1.5 反、桃の畑 1 反を借り、農園事業を開始している。実際に、一人で全ての作業をやってみると、一人だけの労力が正確にわかり、どういうところに人手が必要なのか等を把握し、本格的な着手の準備をしている。

高崎市榛名地域は知る人ぞ知る質の高い果樹産地である。富久樹園では新規事業としてクリスマスローズ栽培も展開



##### ○起業にむけて

- ・将来的には、高崎市榛名地区において高齢化や担い手不足が進んでいる周辺の果樹栽培農家に対し、①果樹栽培の中で人手が必要な作業の一部を請負うという事業と、②自分の農園事業としては、農園と授産施設を組み合わせた事業を構想している。そこで地域ブランドを発信できるような、榛名の財産である景観を生かした質の高い場所づくり、フルーツの加工ブランドづくり等を目指す。
- ・当面の課題は、①の事業を具体的に練っていくためには農家の方ともっと密接な関係を気づき、正確なニーズを把握することが重要と認識している。現在、少しずつ自分がやろうとしている事業内容を農家の人たちに伝えているところである。また、全体として採算が取れる仕組みづくりが課題となっている。

## ②こだわり有機野菜消費者直販CB

<竹淵進：倉淵町> 担当：B（女性 33歳）

- ・群馬が誇る日本有数の農産地であり、有機栽培のメッカである倉淵の旬の食材・野菜の販売（まちなか）等の現場実践。
- ・多様な命が共に生きる事のできる農園づくりを通じて、家庭や社会の繋がりを強めていく。

### ○サポートしているCBの概要

- ・野菜、穀物、家畜：自然栽培、自然養鶏による多様な生命をはぐくむ循環型農業をサポート（季節の野菜、鶏卵の販売）し、郊外と都市部を繋ぐ場作りを支援。地域の伝統技術を学びながら自分の生活に取り入れる機会・場を設け、地域と都市部を繋ぎ、都市部の方々には生きる力の発見を、郊外に住む方々にはその地域の、伝統の良さの再発見と発信。
- ・平成22年度は同時、自分達の畑を確保し、開墾から始まり長年耕作を放棄されていた土地を畑として利用できるように整備した。種を蒔くタイミングや成長のスピード、畑と野菜の相性など、多品目栽培の難しさを実感した。そんな中でも、収穫物を野菜セットの個人宅配を開始。また、えんがわ市などの朝市へ出品、すもの食堂を通じて東京丸の内「にっぽんの・・・」にも出荷を行った。

自主農園の変化



### ○起業に向けて

平成22年度の経験を踏まえて、自分達で作った野菜を生鮮野菜として販売するだけではなく、命を無駄にしない、保存する、付加価値をつけるという視点から加工品販売の必要性を強く感じるようになっていく。同じ頃、新規就農で倉淵町に移住してきた女性たちの中には「余剰の野菜たちを無駄にしたいから、加工品へ利用したい」という思いを持っている人が少なくないということを知った。

こうしたことから地域の農家同士の材料や技術による連携のもと、加工所を立ち上げ、安心できる野菜を使った加工品を倉淵からまちなかへの提供を目指す。

### ③上州一円の旬野菜デリバリーCB

＜耕の民：箕郷町＞ 担当：D（男性 32歳）

- ・群馬名産地の旬の野菜を農家料理のレシピと共にデリバリー&まちなか販売・飲食事業の企画運営・販売等の現場実践。

ー箕郷を中心とした自らの農場と、上州一円のこだわり農家との連携による新たな出口戦略～まちなかにおける消費者への直接販売小売り・サービスとの連携等

#### ○サポートしているCBの概要

平成22年度は、特に高齢化による農家の人材不足等を解消する地域課題を解決する事業の立ち上げをサポートした。耕の民においては収穫部隊を別事業化し、収穫からデリバリーの専門集団チームを構築することで、地域の農家で人員不足を補う事業を開始した。通常、農家において人員が不足している場合は、農家未経験なアルバイト等を手当てせざるを得ない。このCBにおいては指導する時間や手間を省き、スピーディに美しく収穫でき、さらにデリバリーまで請け負うことで、人員が不足している農家の課題を解決することを目指している。

ほうれん草の収穫風景



#### ○起業に向けて

- ・収穫事業部隊をベースに自身が起業できるかを、引き続き試行していく。

### ④まちなかでの屋台通り立ち上げCB

＜LLP高崎食文化屋台通り：田町＞ 担当：A（女性 32歳）、G（男性 26歳）

- ・平成21年12月にオープンした地産地消飲食CB等の起業育成事業である高崎田町屋台通り「恋文横丁」（以下、屋台通りと言う。）の企画運営・管理等現場実践。

#### ○サポートしているCB

担当：A（女性 32歳）

- ・屋台通りの事務・運営サポート

- ・屋台通りの管理・イベントサポート

担当：G（男性 26歳）

- ・屋台通り事務局店舗にて、実際の店舗（飲食業）を経営・運営サポート

#### ○起業に向けて

- ・屋台通りは、平成21年12月11日に正式にオープンした。課題として、まずは20店舗の出店をさらに進めることが急務であったが、平成23年2月末現在全店舗出店が実現した。
- ・当面は、自身が起業するというよりも、まずは屋台の事務・運営をサポートし、運営に関わる仕組みづくり及びその活動を行う。広報等の発信事業も担当しながら、また今後は、屋台通りにおいて本来の街の賑わいの再生、街と郊外を結ぶというコンセプトを実現するためにイベントの実施も重要な活動となる。CIPも同様のコンセプトを持つため、両者で連携したイベントの実施等も行っていく。

#### ⑤エコ農CB

<株式会社山富士産業アグリ事業部：我峰町> 担当：C（男性 40歳）

- ・ひまわり搾油（バイオ燃料）開発栽培生産供給と、まちなかと連動した新エネルギー循環システム、ビオトープ再生事業、連作障害防止事業、棚田再生事業の現場実践。
- ・実施の背景として、環境問題が全世界的にクローズアップされている現在、ゼロエミッションである植物由来のエネルギーの重要性が増してきている。しかし生産コストが高く、石油などの化石燃料に代替できていないという現実がある。一方、日本の農業従事者は高齢化し、耕作放棄地が増大しているという問題がある。
- ・それを解決する一つとして、ヒマワリ等の搾油作物の栽培、バイオディーゼル燃料としての利用を目指す。

収穫したナタネを乾燥



休耕地を耕作



○サポートしているCBーヒマワリプロジェクト

- ・休耕農地の利用：中山間地を中心に増大している耕作放棄地を借り受け、ヒマワリ等を栽培する。
- ・搾油処理：栽培したヒマワリ種子から搾油を行い、食用油として販売する。この際、廃油回収を前提としたデポジット制を採用し、回収率を高める。

（例）販売価格 1000 円、廃油回収時に 300 円のバック

- ・バイオディーゼル燃料精製処理：回収した廃油からバイオ燃料を精製する。必要なプラントは高額な費用が発生するため、当面は外部委託を行う。
- ・バイオディーゼル燃料の販売：CO<sub>2</sub>削減を推進するために軽油並み価格での販売を行う。

○起業に向けて

- ・平成 21 年度はプレテストとしてヒマワリの試験栽培を行った。（1反歩）
- ・現在休耕地を 3 町歩確保し、次年度に備えている。
- ・課題としては、野鳥による食害が著しいこと  
→時期を見極め、刈り取りを早める（8月中旬）必要がある。
- ・人力での収穫となるため、労働集約性に乏しいこと  
→通年で人が関わる仕組みをつくる。観光ツアー等と結びつけられないかを模索。
- ・ヒマワリだけではなく農地の有効利用を考え、また、事業収益を安定させるために裏作を行う  
→ナタネ、米等を想定。すもの食堂やえんがわ市事業とも連携し、小さいながらも出口をつくり、循環する仕組みをつくる。

⑥田町から柳川町一帯の賑わい再生プロジェクト

＜あかね屋：田町＞ 担当：I（女性 22歳）

- ・まちなかに来たくなる仕組みをつくり、田町から柳川町一帯の賑わいを取り戻すことを目的に、最初の一事業として屋台通りに個店を立ち上げ、経営・運営実践

○サポートしているCB

- ・屋台通り店舗「あかね屋」の立ち上げ、運営サポート

○起業に向けて

- ・実際に様々なことができる実証実験の場として「あかね屋」を活用していく。上州・群馬・高崎の食文化を発信していける場の形成を目指す。
- ・あかね屋オーナーとともに、他の場所での賑わいを創出する拠点づくりを構想中。

⑦すもの食堂立ち上げCB

＜ホウトク：高崎市田町＞ 主担当：H（男性 29歳）、F（女性 19歳）

- ・群馬にある美味しい農作物を街中で発信する場所づくり実践
- ・野菜直売所、地産地消カフェ、総菜販売等の事業を通じて、郊外と街、人と野菜、人と人をつなぐコミュニティビジネスの立ち上げ、現場実践

○サポートしているCB

- ・野菜直売所、地産地消カフェ、総菜販売等の実践

○起業に向けて

- ・すもの食堂を軌道に乗せ、CIPで充当している人件費等がなくても運営できるよう収益を上げていく。

B. 高崎CIP自主事業の活動実績

平成22年度は「観光コンシェルジュ事業」、「まちなか蔵リノベーション事業」を実施した。

①観光コンシェルジュ事業

上州高崎場所あそび（質の高い時間を過ごすことを目的とした観光ツアー）の企画運営とその試行

【概要】

- ・上州高崎場所遊びはお客様に上州に来て頂き、その土地の持つ特性を楽しんでいただくプログラム
- ・お客様の住む都市、上州の双方が地域の豊かさを共有しあい、都市と上州の新しい仕組みを構築
- ・四季折々の旬をテーマとして提供できるプログラムの構築とニーズに合わせたツアーを組み立て
- ・上州以外の人に楽しんでもらい反応をみることで、地域が誇るべきものを再認識する。

【トライアル①日程と訪問者】

日程 2010年7月18日～19日

訪問者 4名（経済産業省 若手職員3名、構想日本メンバー）

【トライアル②日程と訪問者】

日程 2010年8月23日～24日

訪問者 4名（A（場所文化機構代表 場所文化プロデューサー）、B（場所文化厨房「にっぽんの…」  
「とかちの…」大店長）、C（総務省地域力創造グループ地域自立応援課 職員）、D（宮  
大工・棟梁）

【トライアル③日程と訪問者】

日程 2010年11月6日～7日

訪問者 7名（経済産業省若手職員、メディア関係者、構想日本メンバー）

【これらを通じてCIPメンバーが養ってほしい視点】

- 地域資源の発掘方法を学ぶ
- 人に心から楽しんでもらえる質の高い時間を提供するためのプログラムを企画し、実際にツアーを実施する。
- ビジネスとして成立するかを検証する。

## 上州高崎場所あそび 事業実施に向けたトライアル第二弾

### 事業報告書

平成22年8月23日～24日  
有限責任事業組合高崎C I P

#### ■ 事業の目的と意義

○「上州高崎場所あそび」は、お客様に上州にお来いただき、場所文化を楽しんでいただくプログラムです。お客様の住む都市・上州の双方が地域の豊かさを共有し合うような、都市と上州の新しい仕組みを構築します。

○"場所遊び"に磨きをかけ、競い合い、地域内の人と地域外の人を巻き込みながら楽しんでいきます。そこには、地域活性化の新しい種が埋まっています。遊びは、仕掛けている人が真剣に取り組んでいなければ楽しめません。また、仕掛けている人が本気で楽しんでいなければ楽しませられません。

○こだわりの生産者の現場、とっておきの物語をもつ農山村めぐり、その地域の場所文化を凝縮したような飲食店、自然景観、地域文化体験、中心部（玄関口としての高崎）の地域の個性を放つ場（屋台など）といった、上州の掛け替えのない、代替不可能な個性をもった場所を、人を中心としてプログラム化します。

○上州・高崎の旬をツーリズムとして提供できるプログラムを構築するだけでなく、事業化段階では、場所あそびコンシェルジュが、お客様グループ（都市住民など）のニーズ・要望に合わせて（カラダにいいことをしたい、おいしい空気を吸いたい、徹底的に大地と戯れたいなど）ツアーを組み立て、テーマ設定型の地域あそびも目指します。

○自分たちの資源を再認識し、人に楽しんでもらうためのプログラムを構築したものを上州以外の人に楽しんでもらい、その反応を見ることで、自分たちの地域が誇るべきものは何なのかということ、このプログラムに関わる生産者など地域の人が改めて気づくことが出来ます。

○いのちの源となるそれぞれの地域の大地の恵みは、他では代替できない、掛け替えのない宝なのだと言うことに気づかされます。一次産業は地域における極めて独自の土台そのものだからです。その掛け替えのなさを訪れた人が感じ、感謝し、堪能する姿を見て、もてなすことで、自分たちの地域を大事にする気持ちが強くなります。

○また、そとに開き、また他の地域との交流を進めることで、良い競争意識が生まれます。より高い時間の質を提供しようと地域間で切磋琢磨し、互いの地域で遊び合う関係が出てくることを想定しています。

○こうした「場所」の物語やプライドと連動して、各地域のコンテンツが販売・提供・サービスされることになり、場所と連動した真のブランドづくりに寄与します。地域帰属性の弱い一過性のブランドでなく、50年、100年スパンで地域の誇りとなっていくようなブランドづくりを進めていきます。

## ■ トライアルの位置づけ

○上州高崎場所あそびのトライアルは第二弾。第一弾は7月下旬に都内在住若手高級官僚3名および政策提言シンクタンク幹部をお招きして開催。

○トライアル第一弾実施に際しては、C I P単独ではなく、P R I M E事務局（県内14大学の学生が参画するまちづくり活動体）高崎旦那衆の会、そして高崎田町屋台事務局等のメンバーのバックアップにより実現。

○そのトライアル第一弾において、図らずもお客様グループを歓喜の渦に巻き込んだ、「上毛かるた」を活用した場所文化の学び&翌日行き先確定スキームは、原則持続していこうということとなり、今回も上毛かるたを使った上州場所文化体験あそびを継続することとなった。

○あそびの実験事業フレームとしては、一泊二日で、高崎までの交通費は別として、

- ・初日のまちなか宴会費用（夕食代金含む）：5千円
- ・一泊の宿泊費（ホテル代金：高崎市内最高級グレードH）：5千円
- ・2日目朝食：1千円
- ・2日目昼食：2千円
- ・2日晩飯（振り返り）：4千円
- ・2日の遊興費（入場料など）：1千円
- ・交通費（レンタカー+ガス代）：2千円
- ・アテンドコーディネータ（人件費）：5千円

上記のように上州の人に会い、1泊4食を満喫して2万5千円という対価を満足して払っていただけるかどうか、がトライアルのコスト面でのメルクマール。2日目について、現状はトライアルのため地元サイドで数名が同乗しているが、事業化以後は、お客6人に対して基本1名でアテンドできるような仕組みにしていきたい。一回の催行人数は6人/台・人。コーディネータは5千円×6名=3万円/回の人件費を手にする。（レンタカーが自家調達であればもうすこし利幅が出る）

○その他、初日のウェルカム宴会の上毛カルタガールズの夕食代、さらには事前にお客さまにお送りする上毛カルタ（現物）の費用などについては現状C I P自主事業負担とするが、将来的には群馬をP Rしたいセクターの方達との連携やサポートの仕組みを考えていきたい（例えば群馬県農産物広報委員会・博報堂、市観光協会、連携するホテルなど）。

## ■ 遊び人（トライアル評価者）

トライアルとして事業を厳しく評価してもらうには格好のメンバー

- A（場所文化機構代表 場所文化プロデューサー）
- B（場所文化厨房「にっぽんの…」 「とかちの…」 大店長）
- C（総務省地域力創造グループ地域自立応援課 職員）
- D（宮大工・棟梁）

## ■ 場所あそび おもてなし体制

### 【初日ウェルカム体制】

- アテンド  
本木陽一（高崎C I P）
- 宴会仕切り並びにかかる読み手  
亀田慎也（旦那衆の会）
- 上毛カルタガールズ  
松沼なほ（高崎C I P/J K G 4 4「の」ガール）  
稲川真弥（高崎C I P/J K G 4 4）  
内田智子（ラジオ高崎/J K G 4 4）
- 審判  
工藤拓也（T B C）
- トータルサポート  
白岩聖子（場所文化機構）

### 【2日目アテンド体制】

- コーディネータ  
松沼なほ（高崎C I P）
- コーディネータサポート  
六本木勇治（P R I M E）  
白岩 聖子（場所文化機構）  
本木 陽一（高崎C I P）  
亀田 慎也（旦那衆の会）  
一山 水希（高崎C I P）

## ■ 第一日：高崎到着～市内循環視察、すもの食堂にてウエルカムドリンク

○8月23日（月）午後3時。場所文化ツアースタート。当初は市内を歩いてシャッター街の実態を体感していただくという予定だったけど、当日は37度という猛暑のため、急遽、車で市内を循環することに変更。

○最初は昭和29年、市の総予算が8億円という時代に、3億円をかけ、そのうち1億5千万は市民からの寄付金で作った高崎の誇りであり個性である群馬音楽センター（地域がもつ群馬交響楽団のホーム）をみていただく

○ついで観音山に登り、高崎及び前橋市街が一望できる場所から全貌をみていただいた。

○そしてまちなかに戻って、今回の宿泊場所である高崎ビューHにチェックイン。

○ここがかつて宇喜代という最大の料亭であったことを紹介し、市街地の空き店舗の惨状、中央銀座の状況をみていただいたあと、すもの食堂に到着。



## ■ すもの食堂

○すもの食堂では、スタッフがお出迎え。現在の工事の進捗と、今後の予定、これから展開していこうとしているすもの食堂を核としたまちなか・まちそのコミュニケーションの方向などについて、両名からご紹介。

○ウエルカムドリンクとして、すもの食堂特製のレモネードのクエン酸で、群馬の暑さを和らげようという意図の模様。

○レモンは群馬産かと聞かれたスタッフは、自信满满に「カリフォルニア」ですと即答。ただし蜂蜜は県産を使っていきたいとのこと。



○ここでお客様役の後藤さんより、レモネードのネーミングが閃いたとの発言。この商品名はレモネードではなく「スモネードだ！」とのありがたい命名。

○じっくり考えてはっきり断ることもできたと思うのだが、スタッフは間髪入れずに「ありがとうございます！」と快諾してしまう。「……………」

○すもの食堂ではこの場所あそびの意義と目的、今回の大まかなスケジュールについて説明。今日行ってくる大会の時間とスケジュール、そしてルールについて説明。



## ■ 金澤屋へ移動

○今回は金澤屋店主が不在のため、スタッフの方より金澤屋のコンセプトと地域との関わり方、お店のターゲットのセグメントと来客必然性を確保するための戦略について語っていただいた。

○この戦略思想自体、これからのまちなかに絶対的に必要であるという意志のもと、屋台通り、事業やすもの食堂事業を行ってきたので、ここはぜひとも体感していただきたい場所。

○D氏はお店の質感に感心してくれました。ただ建物の構造自体は心配な様子でした。

○また、今後、寝具一式ご購入いただけるようA氏に対し良いプレゼンが出来たのではないかと思います。



## ■ 柳川小路の源氏車さんにて恒例の上毛かるた大会を開催

○午後6時から懇親会。そして午後7時をまわったところで、上毛カルタ大会を開始。

○なにはともあれ、異性と向かい合っ、訪れた土地の文化を表出させたかたをやるといことが、思いのほか楽しいということが確認された。

○B氏は、もっとお座敷的な競技要素をいれるべしとのアドバイス。たとえば高崎には、咸臨丸にて渡米した小栗上野介が持参した、自分の場所である倉洲の酒がある。その名も大盃（おおさかずき）。まさに米国と日本が正式にかわした初めての酒、出会いの酒でもあるのだ。例えば自分の札を取られたら、その大盃を、大きな盃で飲まなければならないというような！

○ともあれ今回は無事地元側が「いかにこのかるたが県民に浸透しているか」ということを証明できる好成績に終わった。とくにラジオ高崎の内田氏がさすが元なでしこであるという反射神経をみせた。

○お客さまが取得した札を旦那衆代表の亀田が解説。なかなか感動的な説明で、当方が誘導したい札以外の札、たとえば「沼田城下の塩原太助」のたどんの話、あるいは「水上谷川スキーと登山」など、お客さんがどうしても行きたいのであると注文が入ったが、そこに本当にお連れすべき旬があるということで、また次回もお越し頂くネタとなった。

○結局、開設時にもっとも歌声のデシベルが大きかった、「ら」雷と空風義理人情、そして「の」登る榛名のキャンプ村の2枚をまさに体現する。「倉洲」「榛名」を満喫するツアーに行くと言うことで強引に納得させるというおきまりのパターンが炸裂。

※「ら」は、GHQより札に入れることまかり成らんとされた小栗上野介、高山彦九郎、国定忠治の3人を表す札



## ■ JKGについて

○今回のJKGには新メンバーが加わったが、JKG自体もお客様のパリエーションにあわせて、例えばイケメンの若者など（その場合はJKB）も準備を進めている。

○やはりそれぞれ各地域にゆかりのある人間がJKGには必要だ。そういえばついこの間、「め」銘仙織出す伊勢崎市から、「め」担当ガールズに立候補があった。あたしほど伊勢崎を愛していて伊勢崎をPRする適任はいないわよと。

○いずれにせよお客様お手元を狂わずぐらいの魅力（男女問わず）をこの遊びによって与え、群馬に対してNICEでドキドキする感覚をお持ち帰りいただくことで、そのお客様の周りの方々に、「群馬に行こう。」と言わせることが重要である。



○そのあとは恒例の高崎田町屋台通り中山道恋文横丁へみなさんで繰り出した。

○月曜日で6店舗ほど定休だったが、開いているお店はどこも盛況。

○あかね屋できゅうりを肴に群馬の地酒を飲み、最後はなにやらバージョンアップが進んでいる、カマタマらーめんのいくつかのパリエーションを注文。辛みそ、ゴマ油風味などが派生している！

○そして屋台の後は柳川町へ



## ■ 2日目：食の大地 榛名・倉淵満喫ツアー

○8時45分に柳川町のビューホテルを出発。一台のワゴン車に乗り込んで一路倉淵へ。車中、倉淵の歴史や、なぜ雷と空風の札で小栗上野介なのか、あるいは徳川埋蔵金伝説、さらにはいかにして安中藩と高崎藩が官軍側にコロッと寝返って、小栗を捕獲したか。そしてその捕獲のための口実として、いかに恥ずかしい行為をしたかなどを解説。

○このあたりはちゃんと将来コーディネーターする人間が話せるように整理しておかなければならないと感じる。

○9時30分、自然農で消費者と生産者の新たな関係づくりを目指す伊藤さんご夫妻の農場到着。

○畑での解説。そしてトトロの通路みたいな小径を通過して、原野の中にあるとおきの畑へ。そこのプラムの木の下で、採れたての自然農食材の朝ごはんを馳走になる。

○これ以上早い時間にしてしまうと、虫がたくさんいてできないのだそうだ。真夏の朝、見渡す限りすべて緑で覆われた畑の木陰でいただく朝ごはんは結構贅沢。

○また、伊藤家のおかずに加え、今回の場所あそびのコーディネーターである松沼が、自分の果樹農場で作った梨、桃、そして梅ジュースを振る舞う。

○今回はこの朝ごはん、ぜんぶで一人千円という対価でトライアル。



## ■ 2日目：朝食後、相間川の滝壺での川泳ぎからせせらぎの湯にて入湯

○11時に伊藤農園を出発。次に向かったのは、コーディネート松沼なほが、夏にいつも泳ぎに来るといふ相間川の滝壺。

○事前にお客人の海水パンツを準備していたのだが、そこでズボンを脱いで川に入るといふ一歩が踏み出せない。

○沢登りの達人PRIME六本木は実演してどんどん泳ぐ。

○これがお客人が若者であったならすんなりと入れたであろうが、やるのであれば、最初から海パンを履いてきてもらう、そしておよぎやすいところへ誘導するグッズなども用意しておくべきであった。

○川あそびのあとは、目の前にある公営の日帰り温泉へ。本当はその奥にある雰囲気の良い温泉に行きたかったが今日は定休日であった。

○まあしかしとにかくご老人がわんさかいました。ものすごいコミュニケーションの場なのでね。

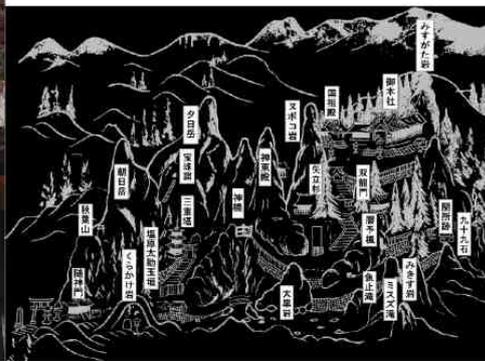


## ■ 温泉で体を清めていざ榛名神社へ



○上州が誇る霊地、榛名神社。たしか上州五宮。ただ持っているパワーはものすごい。

○代参のさかんだった日本各地の榛名講についてはもっと調べて話が出来るようにしておきたい。ハケ・ブラシ講、ヘラ講、東京周辺の太々講。あきらかにそういう信心で成り立っている。助け合いの相互補助金融・娯楽システムについても語れるようにする必要がある。



## ■ 昼食は魚籠屋でやまめの躍り喰い、上州古式うどん

○榛名神社の下にある茅葺屋根古民家の魚籠屋さんで遅い昼食。参拝前に松沼がメニューを前に聞くべく注文電話。

○「いわざかなってどんな種類があるんですか？」

(!) おおいそれは岩魚（いわな）って読むんじゃない？

○「古武うどんってどんなコブなんですか？」

(!) 古武じゃなく古式だよ古式。

○車内で大爆笑をとる松沼にちょっとジェラシー。

結局注文したのは上州古式うどんという、カジカで出汁を取った付け汁のうどん

それに山女魚の躍り喰い（これが強烈）

そして塩焼き、味噌焼き、唐揚げでした。

○ご主人が、次のシーズンであるあきにはななが旨いかを熱弁。一番そられたのは岩魚のはらこと白子のラブラブ漬け。

○今度は貸し切りで夜、飲みに来るよと約束。



## ■ 午後の一時を榛名下里見 富久樹園カフェで

○コーディネータ松沼が実地研修する下里見の富久樹園カフェ。ここは高崎・前橋が一望できるログハウス。ここで、美味しいフルーツデザート各種をいただきました。

○群馬を代表する果樹園農家である富沢さんもいらしてくれて、とはいえなにかお話しをするまでもなく、時間の都合もあり30分ほどでおいとま。ちょっともったいない。

○最後の振り返りミーティングでもA氏から指摘をいただいたが、事前にいままら会に行く人はどんな人で、どんな思いでこういうことをやっている人なのだ、という情報の整理が出来ていないから非常にモッタイナイことになってしまっている。

○まさにこれからの課題として、事前に人物プロフィールを作り、かつそれを車中でちゃんと読むというプログラムにしておく、価値が倍増するうえ、時間の質も高まる。



## ■ 市街に戻り井上房一郎邸、そして振り返りミーティング

○市内の井上邸を見学し、最後に高崎CIPの定例ミーティングにA氏、D氏にも出席していただき、昨日今日の感想と改善ポイントをご提示いただいた。

○D氏からは楽しかったがターゲットの問題を指摘。田舎の人間には当たり前過ぎる部分があるという。

○また、すばらしい神社などなのだから、もっと背景の説明などをできるようになったらいいだろう。それをマニュアル化すべし。

○またおもてなし的に接客する必要はない。非日常を感じてくれればいいのだから方針はいいだろうとのこと。

○A氏からは、まず初日の宴会の料理は5千円とって無理に場所性のない刺身など、あんなにたくさん出さなくていい。もっとこだわりのものが一つあれば場所遊びの客は満足する。そういうのはプロであればあるほどわからないから言ってあげることが必要。

○全体として楽しかったが準備不足。地図が必要。移動の車中のトークが重要。解説はあいまいでなく言い切りで自信を持って。そしてすべての点において、「自分だったらどうされると楽しめるか、何にお金を出すか」という場所文化遊び人視点で見るとよくわかるよとのこと。すばらしい指摘有り難うございます。



②まちなかの蔵リノベーション事業

- ・C I Pの事務所も兼ねた本部のまちなか家屋（蔵）をサロン・ギャラリーにリノベーションし、時間価値創造ビジネスの実践を試行している。
- ・本年度は第一弾として、店舗部分を手作り改装、整備し、すもの食堂事業を開始した。
- ・すもの食堂において、コンセプトづくりは高崎C I P、事業計画事業運営は民間事業者であるホウトク（こんにやく製造をベースに、市民農園経営など新しい農業によるC Bを模索している）、ハード面の設計・施工は若手建築家、デザイナーが担当し、実際の建築・リニューアルは高崎C I Pメンバー等で実施。

【概要／コンセプト等】



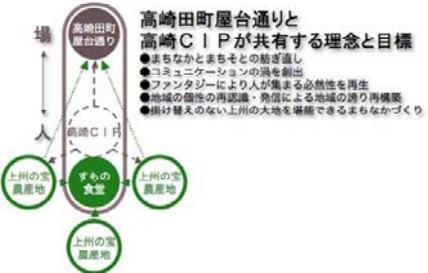
事業スキーム

- STEP1 高崎C I P自主事業として田町蔵空間を整備  
※C I Pの組織形態が自ら設備投資できるフレームがないため、実際に投資するのはC I P組合員個人である
- STEP2 C I Pグループ研修先等周辺農業者の協体制を構築
- STEP3 食堂事業の経営母体を構築  
※C I P事業の理念に賛同し、かつ当該事業にリスクを持って当該事業に取り組む意志を持ったパートナーを発見し、事業の運営母体を構築



高崎C I Pは、高崎田町屋台通りを核とした、民間主導の地域再生・まちなか再構築活動の一環である。その活動の担い手を輩出する苗床機能であり、まちなかと郊外を訪ぐコミュニティビジネスの輩出装置である。すもの食堂は、その理念を引き継ぎ、促進する重要な取り組みである。

C I P事業の位置づけとすもの食堂の意義



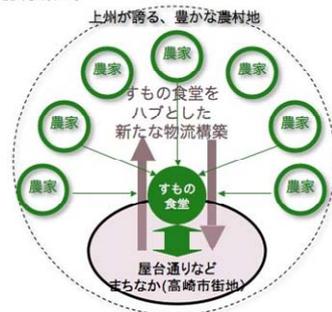
事業のコンセプト

- ・郊外とまちなかを訪ぎ直し、人の思いを交錯する。
- ・まちなかに郊外・農村にとってのプライドとなる場を作る。
- ・上州を訪れた人に、上州の場所場所の物語を放つ。
- ・効率性や利便性とは対極を成す、時間の質を楽しむ場所づくり。
- ・高崎田町屋台通りとの機能相互補完。連携した賑わい構築



農家が主体的にまちば（上州の玄関口）と連携し、新たな出口、新たな物流を構築する。つくるだけの農業から、いのちの物語の発信と時間の質を楽しむ価値提供事業へ。

事業のコンセプト



【蔵のリノベーション、手作りのすもの食堂建築活動】

- ・再生させるための資金は、行政から得るのではなく、街の有志で資金を集め実施した。
- ・平成 22 年 5 月から平成 22 年 11 月の 6 ヶ月をかけ、C I P メンバーも主体となり少しずつ解体し、改装した。



【これらを通じてC I Pメンバーに養ってほしい視点】

- ・郊外と街をつなぐ場所をC I Pメンバーが自らつくる。作れるという成功体験
- ・街の事業者や若手建築家やデザイナー等、優れた才能を持つプレーンとのネットワーク・人脈形成
- ・個別の目的や目標に日々邁進するC I Pメンバーにおいて、全員が共通して取り組むプロジェクトが少ないことからこの機会を通じてチームワークの形成も狙いとした。

### ③域外交流事業

ア. 東京丸の内の場所文化レストラン「にっぽんの・・・」にて、群馬ナイトを開催

#### 【開催概要】

日 時 2010年11月30日 火曜日 午後7時よりラストまで

場 所 「にっぽんの・・・」東京都千代田区丸の内 3-1-1 国際ビル地下1階 (KUNIGIWA)

URL <http://blog.nipponno.com/>

TEL 03 3211 3333

#### ● 趣 旨

日本各地域の志民が集う場所文化厨房「にっぽんの・・・」にて、人情王国・食材王国群馬の人と食を東京で楽しむ収穫祭を開催する。群馬各地域をつなぐ、食と人との交差点、高崎田町屋台通りから、群馬の楽しい各地域の個性を食に乗せて紹介する。

#### ● 主 催

高崎田町屋台通り、高崎旦那衆の会、高崎C I P他

#### ● 内 容

群馬各地域、北毛、吾妻、西毛、中毛、東毛というそれぞれの地域から個性的な食材を持ち寄る。群馬が誇る志民文化、上毛かるた大会を開催。群馬自慢のおもてなし部隊「上毛かるたガールズ JKG44」が対戦相手となる。優勝者は高崎田町屋台通りの地域通貨 1000 dallier (ダルマー) を進呈する。

この秋のテーマは群馬の豚。参加者には各地域の個性溢れる豚肉を堪能してもらう。

その他、上野村おてんまの会による饗宴、中之条 tumuji、峠の釜めしおぎのや、高崎田町屋台通り、すもの食堂など、個性的な場所、場所からのメッセージ発信やおみやげなどを用意する。

#### ● 実 績

定員 40 名ところ 60 名以上の全国の地域振興に関わるキーマンや東京在住の群馬県人を中心に集客を得た。

上毛カルタ大会風景



当日の大盛況ぶり



渾身の群馬料理（上野村猪豚ローストポーク、吉井の蒟蒻と上野村椎茸煮物、上州豚すき丼、焼まんじゅうアイス）



群馬ナイトの様子が上毛新聞を通じて地元が発信



【これらを通じてCIPメンバーに養ってほしい視点】

- 地域資源の発信・伝達方法を学ぶ。
- 人に心から楽しんでもらえる質の高い時間を提供するためのプログラムを企画し、実際にイベントを実施する。
- 高崎以外のまちづくりキーマンとのネットワークを得る。

## イ. マルシェ・ジャポン・キャラバン I N小田原・箱根

### ● 主 旨

高崎市様よりコミュニティビジネスインキュベーションプロジェクトを受託している高崎C I Pでは、湘南新宿ラインで結ばれている小田原ー高崎をキーワードに、下記のイベントを通じて小田原の地で高崎市（食、観光、まちづくり動向等）のをPRする。

同時に第3回ローカルサミット i n小田原・箱根（22日～24日）を開催。全国からまちづくり関係の方々、自治体職員、官僚の方々が結集。24日の最終日には、ローカルサミットのまとめセッションを小田原地下街で実施するため、小田原市民の方々以外の全国のキーマンの方々にも高崎をPRする。

### ● イベント概要

名 称：マルシェ・ジャポン・キャラバン I N小田原・箱根

日 時：2010年10月23日（土）・24日（日）の2日間

場 所：小田原地下街

主 催：共同主催

「小田原まちづくり会社設立委員会」・「小田原箱根マルシェ実行委員会」

来場者想定：6000人



### ● 高崎C I P出店内容

- 高崎の農産物・果物の販売
- おきりこみ、味噌田楽、果物のスイーツ等の加工
- 高崎のパンフレット、屋台、すもの食堂等、高崎C I Pの活動の新聞記事等の配布

### ● 実 績

- ・2日間に渡り出店し、約12万円の売上を得た。



【これらを通じてC I Pメンバーに養ってほしい・感じてほしい視点】

- ・他地域での地域の売り込み方法・コミュニケーション能力
- ・他地域の人たちが覚悟をもって進めている事業へ、よそ者として参画する姿勢・信頼関係構築
- ・売上げを上げる楽しさ

## IV. 地域実証研究活動～宇和島地域の C I P 事業の内容と平成 22 年度の活動

---

### 1. 宇和島地域における C I P 事業の内容

#### (1) 地域の課題とその解決に向けたターゲット

地域を元気にするには、地域の誇りを表現する場所が必要といわれている。宇和島においては司馬遼太郎や多くの文化人が愛し、輝かしい文化的足跡を残した地域の誇りともいえる木屋旅館がその代表的な場所の一つといえる。そしてまた、そこが宇和島の中心商店街の一角に位置することから、宇和島地区全体の活性化の契機とするため、官民一体による地域既存資源を活用した地域活性化モデルの具体化を検討してきた。

そうした状況の中で、この木屋旅館を宇和島滞在及び集散の拠点とし、市内中心部に点在する史跡や市が所有している高野長英隠れ家、周辺地区の歴史的な施設・景観（遊子水荷浦の段畑等）との連携を図り、訪れる人たちが宇和島の方々との交流を図りつつ十分に回遊し、数日間足を休め、宇和島の歴史と食も含む文化を堪能し、真珠等の手作りの特産品に触れ、お土産等として購入し、そしてまた再訪していただく、そうした仕組みづくりのサポートの一端を「宇和島における C I P プログラム（以下、U C I P と言う。）」として実施することとする。

#### (2) 事業コンセプトとミッション

##### ①事業コンセプト

宇和島場所文化の再興～「いのちの街 宇和島」の復興

##### ②ミッション

『中心市街地を拠点にした宇和島全域の活性化！安心して住みやすい街、そして若者が地元を誇り、様々な人が集う街づくり！』を目指す。

- 商店街活性化・旅館再生
- 地場産業の活性化
- 東京との継続的なつながり・各地からの誘客

図表Ⅳ－１ 目指すミッション全体図

### 1. 商店街活性化・旅館再生

- 商店街店舗…空き店舗▲3店舗
- 創業・起業家…5名以上
- 定期的な改修・設備、雇用の発生
- 周辺ホテル・飲食店への流客
- タクシー・バス等への波及効果

LLPが目指すのは中心市街地を拠点にした宇和島全域の活性化！安心して住みやすい街、そして若者が地元を誇り、様々な人が集う街づくり！



### 2. 地場産業の活性化

- 起業・創業者の増加
- 観光リズム(農業・漁業体験)
- 柑橘等を活かした菓子作り
- パールエステ・真珠の普及・ブランド化
- 木屋旅館・高野長英等古建築の活用

### 3. 東京との継続的なつながり・各地からの誘客

- 平成22年4月…銀座ファームエイド(秋も開催)
- 平成22年5月…丸の内にレストラン「につぼんの…」オープン
- 平成22年6月…マルシェジャポンin宇和島開催
- 平成22年7月…和壺大祭に約10名来宇。古建築ミニシンポ開催。
- 平成22年11月…スペイン観光客誘致(レオン県幹部等)

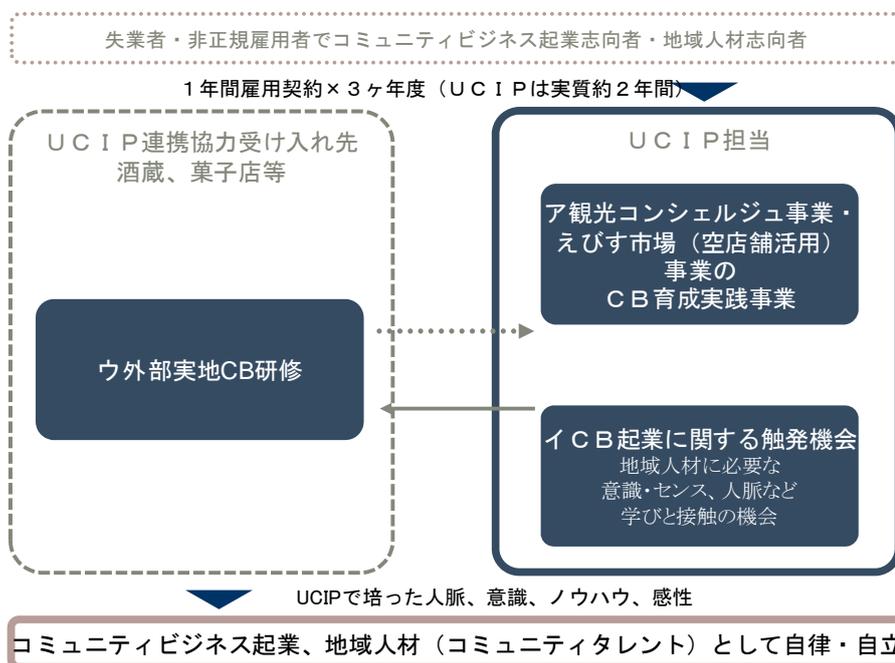
-53-

## (3) 事業の基本構造

- ①UCIPにおいては、木屋旅館の再生（オーベルジュや観光の基点へリニューアル）及び地場産業活性化に必要な機能を担う人材を雇用し、実践の中で能力を磨いていく。能力を磨く際、必要に応じて修業先として外部連携協力先を募りそこでの実習も行うが、軸足はUCIPが企画・立案したプログラムを実践し、木屋旅館再生及び商店街活性化に関するCBの担い手として寄与していく人材を育成する。
- ②ハローワークを通じて失業者・非正規雇用者を募集。起業の意志があり、より具体的な起業イメージがある者の中で、設定した地場産業に必要な機能を担う人材を書類及び面談により選出。
- ③雇用されたCIPメンバーは、必要であればUCIP外部連携協力先にて実習（下記ウ）しつつ、基本的にUCIPが行うCB育成実践事業に携わる。また、UCIPによる東京とのネットワーク事業をベースにCB起業に関する触発機会も多いに利用し、人脈や意識、ノウハウ、感性を磨いていく。
- ④これらの活動を通じて木屋旅館再生やその他の地域再生事業を軌道に乗せていきながら、ゆくゆくは事業そのものの担い手にもなっていく。また本人の意志によってはCIPメンバー自身も起業する準備をし、CBの起業を目指す。

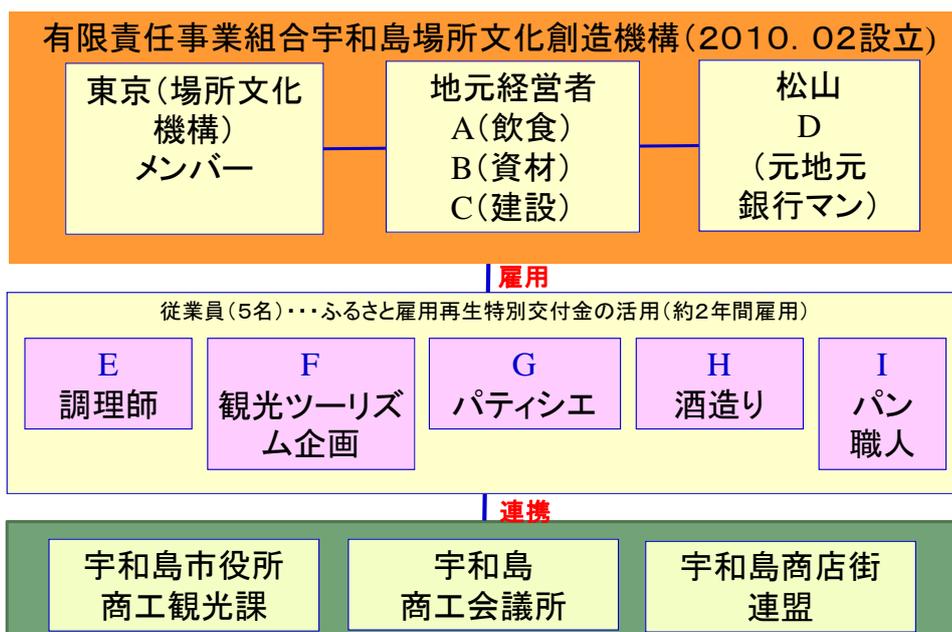
図表Ⅳ－２ 事業構造イメージ

- ア 観光コンシェルジュ事業・えびす市場（空店舗活用）事業のCB育成実践事業（UCIP担当）
- イ コミュニティビジネス起業に関する触発機会（UCIP担当）
- ウ 外部実地コミュニティビジネス研修（外部の連携CB・地域事業実践先に依頼）



(4) 参考：有限責任事業組合宇和島場所文化創造機構（UCIPの運営母体）の設立について  
有限責任事業組合設立の形態等は高崎CIPと同様のため、ここではUCIPの組織構造図を示す。

図表Ⅳ－３ 組織構造図



## 2. 平成 22 年度の U C I P 活動報告

### (1) U C I P メンバーの概要

平成 22 年度本事業に参画しているのは以下の 5 名である。年齢も目的も幅広いメンバーで構成されているが、高崎 C I P との違いは専門技術を持つ者を多く雇用している点である。

図表Ⅳ－4 平成 22 年度 U C I P メンバー

	属性(性別、年代)	平成22年度 実習内容	将来目標／どのようなCBを立ち上げたいか(採用当初)
1	A 男性 30代	観光ツーリズム企画	・宇和島独自の歴史・文化、景観・場所、農産物を生かした観光ツーリズム事業を起業
2	B 女性 20代 (パティシエ)	地域資源を活用したスイーツやパン等の商品開発	・地域資源を活用した飲食事業を展開
3	C 女性 30代 (パン職人)	地域資源を活用したスイーツやパン等の商品開発	・地域資源を活用した飲食事業を展開
4	D 男性 20代	地域独自の酒づくりを学ぶ	・地域資源を活用した事業を展開
5	E 男性 40代 (調理師)	地域資源を活用した食文化を学ぶ	・地域資源を活用した飲食事業を展開

### (2) 平成 22 年度実施プログラム

U C I P の実質の事業スタートが平成 22 年 6 月以降であるため、外部協力連携先との C B 支援は準備期間が多かったことから本報告書の中では記述せず、U C I P 独自の自主事業のプログラムのみを示す。

#### ①商店街活性化・木屋旅館再生事業

- ア) U C I P 活動母体である L L P 宇和島場所文化機構による商店街での事務所開設
- ・セミナー等を開催する場所等を開設し、木屋旅館再生に向けた戦略立案事務局を設置

#### イ) 空き店舗を活用したえびす市場展開

- ・愛媛にある美味しい農作物等を街中で発信する場所づくり実践
- ・空き店舗を活用した C B の苗床機能の開設

#### ②地場産業の活性化事業

##### ア) 観光ツーリズム企画

- ・宇和島の歴史・文化資産、自然環境・場所、食文化、農作物、海産物等の地域資源の情報収集
- ・古民家再生事業着手

イ) 地域資源を生かした商品開発事業

- ・農産物等の資源で総菜、スイーツ、パン等の商品を開発、ゆくゆくはえびす市場で販売していくことなどを目的に実施。

③東京との継続的なつながり・各地からの誘客事業

－「日本・世界からわざわざ宇和島へ」ネットワークづくり

- ・東京銀座ファームエイドへの参加（春、秋）サポート
- ・丸の内にレストラン「にっぽんの・・・」における宇和島ナイトの開催サポート
- ・マルシェ・ジャポン in 宇和島開催サポート
- ・域外来訪者への宇和島ツーリズム開催

図表Ⅳ－５ UCIPの中期的事業内容



図表Ⅳ－6 UCIPにおける平成22年度事業内容イメージ



- ミニ産直市(若手農家・漁業者の直売)
  - 料理教室・お菓子教室・食育講座(OL/子供)
  - 地元の人(おばちゃんなど)が集う、家庭料理の実践の場
- ⇒出口:産直市の常設・スイーツ店の開店・飲食店の開店等



- 動画(YouTube・ユーストリーム)⇒ストリートビュー
- CATVと連携



(例)

1. **俺ん家(オレンジ)ジュース**(12種類の柑橘を旬の時期に生産農家の顔が見える形で、この時期は、俺ん家のジュース!と動画で分かる形で生ジュースを出す)
2. **チョコっと冷糖**(洋菓子:柑橘とはちみつ、チョコレートを使ったアイス、冷んやりしたチョコレート)
3. **タイ饅勝負!**(和菓子:鯛の形をした饅頭で、中身は、2種類の柑橘とはちみつ、クリームをブレンド・・・頭と尾部分で2種類の味が楽しめる)



(3) 平成22年度UCIP活動実績

①商店街活性化・木屋旅館再生事業

ア) 空き店舗を活用したえびす市場開設

○概要

- ・愛媛にある美味しい農作物を街中で発信する場所づくり実践
- ・野菜直売所、キッチンスタジオによる郷土料理教室、総菜やパン、スイーツ販売を目指し、郊外と街、人と野菜、人と人をつなぐコミュニティビジネスの立ち上げ、現場実践

○育成しようとしているCB・CB苗床機能の内容

- ・野菜直売所の試行。地元資源を活用した総菜、パン、スイーツの商品開発はえびす市場を活用して実施。キッチンスタジオ活用等は次年度本格稼働に向けて準備中。

○事業化にむけて

- ・平成23年4月以降えびす市場及びキッチンスタジオという場所が本格稼働するため、これらを拠点に様々な地域発信事業を実施していく。



## 商店街の今後のあり方と木屋旅館の有効活用について模型製作で立体的に提案



### ②地場産業の活性化事業

#### ア) 観光ツーリズム企画及びツアートライアルの実施

- ・ 宇和島の歴史・文化資産、自然環境・場所、食文化、農作物、海産物等の地域資源の情報収集
- ・ 実際にツアーを組立・外部からきたお客様に対して実施
- ・ 古民家再生事業への着手

#### ○概要

- ・ お客様に宇和島に来て頂き、その土地の持つ特性を楽しんでいただくプログラム企画
- ・ お客様の住む都市と宇和島の双方が地域の豊かさを共有しあい、都市と宇和島の新しい仕組みを構築
- ・ 四季折々の旬をツーリズムとして提供できるプログラムの構築と、ニーズに合わせたツアーの組み立て
- ・ 宇和島以外の人に楽しんでもらい、反応をみることで地域が誇るべきものを再認識

#### ○育成しようとしているCB・CB苗床機能の内容

- ・ 質の高い時間を過ごすことを目的とした観光ツアーや体験プログラムの企画から実施までも行う事業を立ち上げていく。

#### ○事業化にむけて

- ・ 現状においては、地域資源や情報を蓄積し、それらを持っている地域の方々とのネットワークを構築しているところである。
- ・ 試行を重ねつつ、木屋旅館再生と連動し、来訪者にツアーや体験プログラムを提供していく。

【現在UCIPで蓄積している宇和島の自然や産業を活かした体験プログラムの一例】

## 宇和島体験プログラム

宇和島の自然や産業を活かした体験プログラム

### 自然体験



#### カブトムシ・クワガタ捕りツアー

- ・時間：1時間～2時間(夜間)
- ・期間：7月中旬～8月末



#### ザリガニ釣り

- ・時間：1時間～2時間
- ・期間：4月～10月



#### バスフィッシング(中山池自然公園)

- ・時間 2時間～4時間
- ・期間 年中



#### 天体観測

- ・時間：1時間～2時間
- ・期間：夏・冬



#### ホタル狩り

- ・時間：1時間～1時間半(夜間)
- ・期間：5月下旬～6月中旬



#### バードウォッチング

- ・時間：1時間～2時間
- ・期間：年中



#### 里山自然観察

- ・時間 2時間
- ・期間 3月～11月

## 農業体験



### 田植え体験

- ・時間: 2時間
- ・期間: 5月



### 稲刈り体験

- ・時間: 4時間
- ・期間: 9月



### 野菜収穫&加工体験

- ・時間 4時間
- ・期間 年中



### きのこ狩り

- ・時間: 5時間
- ・期間: 9月～10月



### 果物収穫&加工体験

- ・時間: 4時間
- ・期間: 年中

## 畜産体験



### 酪農体験&加工体験

- ・時間: 5時間
- ・期間: 年中



### 養鶏体験&加工体験

- ・時間: 3時間
- ・期間: 年中

## 林業体験



### 炭焼き体験

- ・時間: 3時間
- ・期間: 年中

## 漁業体験



### 溪流釣り体験

- ・時間：4時間
- ・期間：3月～9月



### 海釣り体験

- ・時間：4時間
- ・期間：年中



### 白魚漁体験

- ・時間 2時間
- ・期間 1月中旬～2月中旬



### あおさ・あおのり漁体験

- ・時間：2時間
- ・期間：1月中旬～4月中旬



### うなぎ地獄漁体験

- ・時間：3時間
- ・期間：6月～9月



### すくいちりめん漁体験

- ・時間：5時間
- ・期間：春



### 伊達アジ漁見学

- ・時間 4時間
- ・期間 年中



### 魚養殖体験

- ・時間：4時間
- ・期間：年中



### 潮干狩り

- ・時間：3時間
- ・期間：4月～6月



### 真珠養殖体験ツアー

- ・時間：1時間～1時間半
- ・期間：年中
- ・場所：宇和島市三浦西 土居真珠

# 食物作り体験



## 郷土料理体験

- ・時間: 3時間
- ・期間: 年中



## 味噌作り体験

- ・時間: 4時間
- ・期間: 1月・2月



## ソーセージ&燻製作り体験

- ・時間: 4時間
- ・期間: 年中



## 手打ちうどん体験

- ・時間: 2時間
- ・期間: 年中



## かまぼこ体験

- ・時間: 1時間半
- ・期間: 年中



## かんてん作り体験

- ・時間: 1時間半
- ・期間: 年中



## 藻塩作り体験

- ・時間: 3時間
- ・期間: 年中



## 干物作り体験

- ・時間: 1時間半
- ・期間: 年中

## 工芸体験



### 正月飾り体験

- ・時間：2時間
- ・期間：12月



### 凧作り体験

- ・時間：1時間半
- ・期間：年中



### 巣箱作り体験

- ・時間 2時間
- ・期間 年中



### かご作り体験

- ・時間：2時間
- ・期間：年中



### わらじ作り体験

- ・時間：1時間半
- ・期間：年中



### 竹玩具作り体験

- ・時間：1時間
- ・期間：年中



### 草玩具作り体験

- ・時間 1時間
- ・期間 年中



### 苔玉作り体験

- ・時間：1時間半
- ・期間：年中



### 愛みかん染め体験

- ・時間：2時間
- ・期間：年中
- ・場所：宇和島市東三浦船隠 和楽路工房内



### 陶芸体験

- ・時間：2時間～
- ・期間：年中
- ・場所：鬼北町大字吉波・吉野

# 文化体験



## 縄文生活体験

- ・時間: 4時間
- ・期間: 年中



## 海底ハウス体験

- ・時間: 3時間
- ・期間: 年中



## 海賊船体験

- ・時間: 3時間
- ・期間: 年中



## ミニ牛鬼作り体験

- ・時間: 3時間
- ・期間: 年中



## 遍路道体験

- ・時間: 4時間
- ・期間: 年中
- ・場所: 愛南町



## 伝師と刻心弘法大師体験

- ・時間: 不明
- ・期間: 年中
- ・場所: 宇和島市光満甲55-17

【ツアートライアル①日程と訪問者】

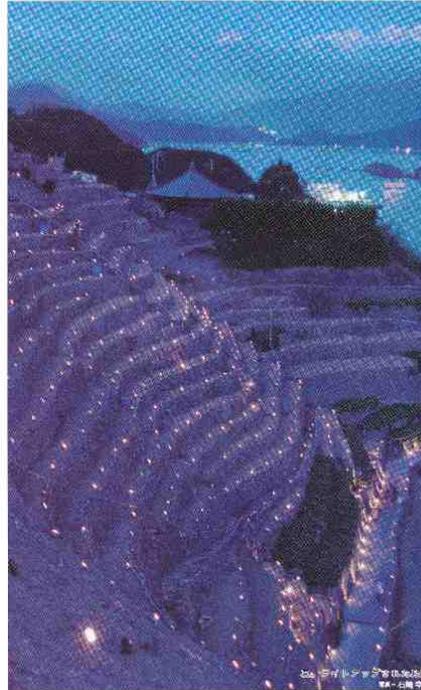
日 程 2010年8月4日～5日

訪問者 4名（場所文化機構メンバー）

ナビゲータ 平井（UCIP観光ツーリズム企画担当）、宮成（UCIP事務局長）

《遊子段々畑ライトアップツアー》

4日  
 12:00頃 宇和島到着  
 ↓ (15分)  
 12:30 薬師谷溪谷（そうめん流し）  
 ↓ (25分)  
 13:30 土居真珠（真珠養殖体験）  
 [Tel 0895-29-0011]  
 ↓ (25分)  
 15:30 農業民宿 のうみん  
 （石釜ピザ焼き体験）  
 ↓ (10分)  
 18:00 遊子ライトアップ遊覧船  
 ↓  
 21:00 宴会（場所未定）  
 ↓  
 23:00 農業民宿 のうみん泊  
 [Tel 0895-26-2929]



5日  
 6:00 やまこうどん  
 ↓ (20分)  
 7:00 吉田マリン（筏釣り）  
 [Tel 090-1172-4788]  
 ↓  
 10:00頃 出発



予算

そうめん流し	¥600	のうみん宿泊費（素泊まり）	¥5,000
真珠養殖体験	¥1,000	やまこうどん	¥350
石釜ピザ焼き体験	¥2,000	筏釣り	¥3,500*
遊覧船	¥1,000*		
宴会費	¥5,000*		

\*は未確定

合計 ¥18,450

## 【トライアル②日程と訪問者】

日 程 平成 22 年年 12 月 6 日～ 7 日

訪問者 3 名（総務省職員、場所文化機構メンバー）

ナビゲータ 平井（UC I P 観光ツーリズム企画担当）、宮成（UC I P 事務局長）、吉澤

### スケジュール

6 日

11 時頃 UC I P 平井が松山空港出迎え

その後、内子、大洲、卯之町等を視察／南予場所文化ツアー想定先を案内。

16 時頃宇和島着

16 時～18 時、UC I P の取組み等のミーティング

18 時ホテルチェックイン

18 時半～懇親会

7 日

8 時頃 やまこうどんで朝食

8 時半～10 時 宇和島C I P 活動先等の朝市（えびす市場）、木屋旅館視察、等

10 時 ～13 時 きさいや広場、段畑、土居真珠等視察、古民家再生事業視察

14 時半 宇和島出発

16 時過ぎ 松山着、適宜解散

八日市護国の古い町並み（内子町）



ポコペン横丁（大洲市）



おおず赤煉瓦館（大洲市）



えびす市場（宇和島市）



【スペインからの来訪団受け入れ】

日 程 2011年11月9日～10日

訪問者 ・モリナセカ町長 アルフォンソ・アリアス・バルボア氏  
・モリナセカ国民党議長 アルフレッド・アルバレス・ペレス氏  
・レオン県商工会議所代表 マリア・サンブラノス・ビジャ氏

ナビゲータ 平井（UCIP観光ツーリズム企画担当）、宮成（UCIP事務局長）



スペインと言えばフラメンコ。  
地元のフラメンコで出迎え。



商工会議所役員、市役所関係者と会食。  
宇和島たい飯等郷土料理を箸で堪能。



早朝より魚市場見学。セリなど、日本独特の文化に触れる。



築130年の農家民宿（古民家再生）で宿泊。五右衛門風呂も体験。  
この民宿を非常に気に入っていただく。



国の重要文化的景観「遊子の段畑」を視察。「耕して天に至る」地域の人々の息遣いが感じられる景観にため息を漏らしていた。



スペインと言えば闘牛。宇和島も年間5回の定例闘牛場所を開催。闘牛場を訪問の上、地元横綱の背中に乗ったりして興奮。牛対牛の闘牛、また宇和島闘牛独特の、負けた方が給金が多いという思いやりのシステムに深く感銘を受けていた。スペインの、人が牛を殺してしまうシステムの違いを自ら説明されていた。



宇和島の文化「牛鬼」を地元の牛鬼保存会メンバーとともに一緒に担ぎ写真撮影。

「真珠、食、自然、人柄、闘牛」等、宇和島の魅力に深く感銘していただき、来年、20名程度で観光としてくる可能性を示唆された。外国人観光客にも十分観光地としての魅力があることを確認できた。英語でのボランティアガイド育成が必要である認識を持った。

イ) 地域資源を生かした商品開発事業

・きさいや広場加工室にて農産物等の資源を生かしスイーツ、パン等の商品開発を実施した。

試作 米粉パン

食パン・・・バター・砂糖・塩・生クリーム・米粉・生イースト  
菓子パン・・・上記の材料に卵が入る。



こし餡・白あん・イチゴジャム・五色まめを  
中に入れて包み焼く。



試作 米粉パン

菓子パン・・・米粉・生イースト・砂糖・塩・卵・マーガリン  
食パン・・・米粉・生イースト・砂糖・塩・バター・生クリーム

ココクリームパン、帽子パン、ジャムパン  
イチゴメロンパン、生クリームパン、  
チョコクリーム入り帽子パンの 6 種類



クルミ食パン



試作 米粉パン

コッペパン・・・米粉・生イースト・砂糖・塩・マーガリン  
フランスパン・・・米粉・生イースト・塩・水  
食パン・・・米粉・生イースト・砂糖・塩・バター・生クリーム  
菓子パン・・・米粉・生イースト・砂糖・塩・卵・マーガリン



クルミ食パン



チーズフランスパン



バケット



クルミフランス

試作 地元みかん米粉パン

フランスパン・・・塩・水・米粉・生イースト

みかん食パン・・・米粉・生イースト・砂糖・塩・バター・生クリーム、  
地元100%みかんジュース

菓子パン・・・米粉・生イースト・砂糖・塩・卵・マーガリン



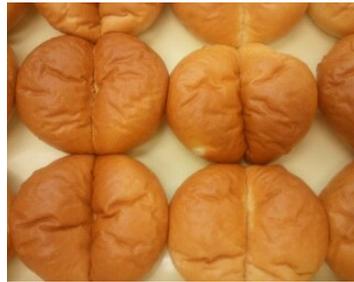
みかん食パン



試作 米粉パン

コッペパン・・・米粉・生イースト・砂糖・塩・マーガリン

ラスク・・・前日の食パンをスライスして、バターと砂糖で味付けして水分をとばす。  
かりかりのお菓子になる。



試作 米粉パン

菓子パン生地・・・米粉・生イースト・砂糖・塩・卵・マーガリン

餡もちロール



チョコブレッド生地に生クリームとバナナをはさみました



試作 地元イチゴの米粉パン

デニッシュ生地・・・米粉・砂糖・塩・生イースト・マーガリン・油脂



デニッシュチョコ・地元みかん・りんご・地元農家無農薬イチゴ  
生地に弾力があるため、デニッシュ生地を麺棒でのばすのが大変。  
油脂の層がなかなか入らず、いい生地にはならなかったが、  
味には変わりなかった。

③東京との継続的なつながり・各地からの誘客事業

ア) 東京丸の内につぼんの・・・における宇和島ナイトの開催

● 概要

宇和島出身であるが東京在住の若者達が主軸となって宇和島若手会の発足と、東京の愛媛・宇和島ファンが集う。

● 日時 7月14日(水) 18時半から受付、19時開始

● 場所 につぼんの・・・



イ) マルシェ・ジャポン CARAVAN in 宇和島開催サポート

● 日時 平成22年6月12日から13日



ウ) ファームエイド銀座出展サポート

● 概要

宇和島から牛鬼、真珠、じゃこ天、みかん、宇和島たい飯等が参加。宇和島の柑橘を活かしたカクテルを銀座社交業飲料組合様が開発。試飲会が開かれた。

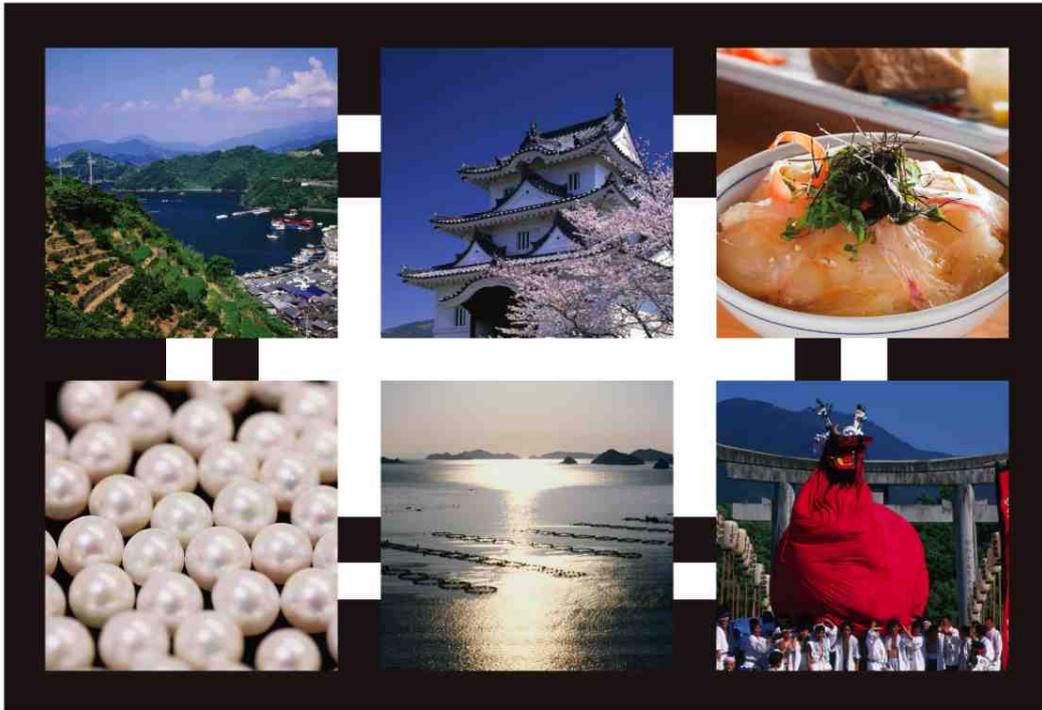
● 日時 平成22年4月29日から30日、平成22年11月23日から24日



④地域住民に向けた地域活性化触発事業

フジマキジャパン代表・藤巻氏より「宇和島商店街の活性化と宇和島ブランドの確立に向けて」をテーマとした講演会を開催。

日 時 平成 23 年 2 月 12 日



## 宇和島商店街の活性化と 宇和島ブランドの確立に向けて

株式会社 フジマキ・ジャパン、藤巻幸夫氏を講師にお迎えします！

2011年2月12日(土) 11:00～12:30

■ 宇和島商工会議所 3F 宇和島市丸之内1-3-24

■ 講師／藤巻 幸夫 (ふじまき・ゆきお)

株式会社 シカタ 代表取締役プロデューサー

株式会社 テトラスター 代表取締役社長

株式会社 ビーバイイー 社外取締役

株式会社 フジマキ・ジャパン

1960年東京生まれ。上智大学経済学部経営学科卒業後、伊勢丹に入社。[解放区][リスタイル][BPQC]など数々の売り場をプロデュース。またバーニーズジャパン設立メンバーとして婦人服を担当する。伊勢丹退社後、アパレル会社、バッグ会社の役員を経て2003年補助株式会社社長の社長を務め1年半で再建を果たす。2005年株式会社セブン&アイ生活デザイン研究所代表取締役、株式会社イトーヨーカ堂取締役執行役員衣料事業部長となる。現在では株式会社シカタ代表取締役プロデューサー、株式会社テトラスター代表取締役社長などを兼任し、新しいライフスタイルの提案や日本をキーワードにこだわった売り場、ブランド作りの道を歩き始める。またアカデミーヒルズ「日本元気塾」の講師や明治大学特任教授としても教育分野にも進出。



街いきいき！がんばる元気、応援します。

株式会社 全国商店街支援センター

■主催／株式会社 全国商店街支援センター 〒104-0043 東京都中央区湊1-6-11八丁堀エスワンビル4階

(株)全国商店街支援センターは、中小企業関係4団体(全国商工会連合会、日本商工会議所、全国中小企業団体中央会、全国商店街振興組合連合会)が地域商業の抱える諸問題を解決するために協同設立した会社です。人材育成事業や専門家による商店街支援事業などにより、商店街活性化をサポートします。

■中小企業庁支援事業【お問い合わせ先】宇和島場所文化創造機構 〒798-0032 愛媛県宇和島市恵美須町1-4-25 TEL.0895-20-0505 FAX.0895-20-0515

■協力 宇和島商工会議所 〒798-0060 愛媛県宇和島市丸之内1-3-24 TEL.0895-22-5555 FAX.0895-24-6655 <http://www.uwajima-cci.or.jp/>

## V. 本年度の活動を踏まえた成果と課題の分析

---

### 1. 成果や課題等の評価や分析手法、とりまとめにむけて

#### (1) 実証研究・分析およびとりまとめに向けた検討

実証研究・分析については場所文化機構職員が実施するが、活動実態をより明確にし、本事業の効果を高めていくために実際に人材育成事業に関わる地域スタッフとのミーティングより出た意見を踏まえて実施した。

#### 【分析・とりまとめに向けたミーティング】

##### ●分析・とりまとめに向けたミーティング①（平成 22 年 7 月 16 日開催／東京）

議題①：各地域の実証研究に向けた諸条件の整理、目標設定 他

議題②：実証研究の活動報告①、分析・評価手法の検討 他

##### ●分析・とりまとめに向けたミーティング②（平成 23 年 1 月 15 日開催／東京）

議 題：実証研究の活動報告②、とりまとめ骨格案の検討

##### ●分析・とりまとめに向けたミーティング③（平成 23 年 3 月 4 日開催／東京）

議 題：報告書案について

#### (2) 成果や課題等の評価指標や分析手法

##### ①評価指標（ポイント）

当該事業において対象とした人材育成プログラムについて、高崎における実施期間は1年半、宇和島については1年満たないという期間の中で、どの次元で評価していくかという点は困難を極めた。しかし本機構が実施している人材育成は机上で評価することではなく、将来に繋がり、地域に寄与する現場やうごめきを継続的に生み出す中で人材が育っていくというプログラムである。また、全てにおいて試行的な要素が強く、「まずはトライしてみる」ということを重視している。

これらを踏まえて、今年度は下記の通り3点を設定した。

評価指標 1 コミュニティビジネスの芽、コミュニティビジネスの種を育成する苗床機能の創出

コミュニティビジネスが継続的に生まれてくる苗床機能を如何に創出できたか。

（種から芽にする活動や苗床機能の創出活動自体も人材育成プログラムとなっている）

評価指標 2 各メンバーが目指す目的や目標の達成状況

C I Pメンバーが当初目指してきた目的や目標に対する達成度

評価指標 3 本プログラム実施に関与してきた自治体の意識や行動の変化

事業の委託者という立場でかかわり、人材育成の現場をつぶさに見守りながら「意識改革」、「独自の民間と公共との連携方法の構築」、「他地域間のネットワーク構築」に関する変化をみる。

## ②分析手法

当該事業で対象とした人材育成プログラムの分析手法として、対象数が少なくアンケート等による定量的な分析は困難であるため以下の通り設定した。次年度以降、分析手法についても継続的に検討していく。

評価指標 1 コミュニティビジネスの芽、コミュニティビジネスの種を育成する苗床機能の創出

コミュニティビジネスが継続的に生まれてくる苗床機能を如何に創出できたか。

→分析・整理方法：実際に創出された実績を整理する。

評価指標 2 各メンバーが目指す目的や目標の達成状況

C I Pメンバーが当初目指してきた目的や目標に対しての達成度

→分析・整理方法：本機構メンバーや組合員の視点で、C I Pメンバーが当初設定した目標に対し、進捗状況をその理由とともに段階別に評価する。

評価指標 3 本プログラム実施に関与してきた自治体の意識や行動の変化

事業の委託者という立場でかかわり、人材育成の現場をつぶさに見守りながら「意識改革」、「独自の民間と公共との連携方法の構築」、「他地域間のネットワーク構築」に関する変化をみる。

→分析・整理方法：「意識改革」、「独自の民間と公共との連携方法の構築」、「他地域間のネットワーク構築」という3点の変化を、本機構メンバーの立場で定性的に分析する。

## 2. 今年度の活動を踏まえた成果分析

### (1) C I Pによる成果と課題

#### ①コミュニティビジネスの芽、コミュニティビジネスの種を育成する苗床機能の創出

高崎及び宇和島の活動を通じて、外部協力連携先やC I Pメンバーから創出された具体的なコミュニティビジネスの芽、それらを育てる苗床機能を整理する。こうした機能が一つではなく、いくつも継続的にでてくることがコミュニティビジネスを生み出し、その担い手を育成することに繋がると考えられる。

#### 【すもの食堂／高崎C I P】

平成 22 年 11 月に正式にオープンし、集客（買い物客ベース）70～100 人／日、売上高 7～10 万円／日の場所になっている。



野菜と人が集う場所、  
みんなで作りました。

#### すもの食堂

野菜直売所／地産地消カフェ／惣菜販売／貸し農園  
370-0824 群馬県高崎市田町 25 ☎027-321-5289  
mail@sumono.net http://www.sumono.net

群馬には美味しい農産物がたくさんあります。また、商業の街として栄えた高崎には、数多くの蔵が残っています。わたしたちは、この二つの資源を組み合わせて、中山間地域と市街地の両方を元気にする場を作りたいと考えました。あえて行政からの援助を受けず、想いがこもった空間を自分たちの手で作り上げたいという考えのもと、有志が資金を出し合い、若手建築家やデザイナーがクリエイティブな力を提供し、建築作業も自分たちで手がけ、完成したのが「すもの食堂」です。

野菜直売所、地産地消カフェ、惣菜販売、貸し農園紹介といった事業を通して、山と街を、人と野菜を、人と人をつなぐ場所として、いま動き始めようとしています。



#### 【えびす市場／UC I P】



②各CIPメンバーが目指す目的や目標に対する達成状況（平成21年度末比較）

高崎CIPメンバーにおいては平成21年度までの進捗に対し、個々に取り組んでいる事業目標に対して平成22年度末時点での達成状況を段階別に評価を実施した。平成23年度は現在1期メンバーの事業最終年度であるため、これらをベースに起業等の方向性を確認し、不足している能力等を確認しながら実習を進める。なお、UCIPについては平成22年度より開始事業であるため評価はせず、個別評価は次年度への課題とする。

A さん	高崎田町屋台通り(CB苗床機能)	
	21年度末の状況	4
	22年度末の状況	5
<ul style="list-style-type: none"> <li>・21年12月に開設し、当初は7店舗の入居からスタート</li> <li>・22年度に入り最終的に、20店舗ある屋台通り事業は全店入居が決まり、売上げを順調に伸ばし、平成22年内には月5000人を超える来場を達成した。</li> </ul>		

F さん	えんがわ市等の野菜直販事業(すものプロジェクトに移行)	
	21年度末の状況	1
	22年度末の状況	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度は、地域資源の農を街中で発信する事業を模索してきた。</li> <li>・22年度に入りすもの食堂事業として結実し、店舗造作、店舗開設(事業化)に至り、運営にも参画。</li> </ul>		

B さん	自然農法の農場立ち上げ・野菜販売	
	21年度末の状況	2
	22年度末の状況	3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度中は移住や農場確保に向けて準備段階</li> <li>・22年度は、実際に自然農法による農場を確保し、野菜の栽培等を開始。様々な確認ができた。今後は加工品づくりと販売にも力を注ぐ予定である。</li> </ul>		

G さん	高崎屋台通りにて地域を発信する飲食事業	
	21年度末の状況	1
	22年度末の状況	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度から22年度夏まで事務局店舗にて実習。</li> <li>・22年7月に自ら企画し、運営する店舗を開店(この時点で、実質CIPからは卒業)</li> </ul>		

C さん	環境循環CB	
	21年度末の状況	2
	22年度末の状況	3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度は休耕地を確保し、ヒマワリを植え搾油を試行した。</li> <li>・22年度は、農業法人を立ち上げ、さらに休耕地を確保し、ヒマワリ等を栽培したが、連作障害により、十分な量の搾油にまで至らなかった。</li> </ul>		

H さん	すものプロジェクト	
	22年度初頭の状況(22年度入社)	1
	22年度末の状況	4
<ul style="list-style-type: none"> <li>・もともとカフェ事業を自らも展開する意向をもち、その修業の場としてCIPに入社</li> <li>・22年度入社意向、店舗造作からデリバリー、店舗開店後も店舗運営等に参画。</li> </ul>		

D さん	都市と農村の課題を解決する農業関連CB(野菜栽培)	
	21年度末の状況	0
	22年度末の状況	2
<ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度は起業意向はあるが具体的内容を模索中だった。</li> <li>・22年度末時点においては、事業化内容のめどが立ち、起業にむけて準備を開始した。</li> </ul>		

I さん	高崎屋台通りにて地域を発信する飲食事業	
	21年度末の状況	4
	22年度末の状況	5
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年12月屋台通りオープン当初から地域資源を街中で発信することを目的に、個店の立ち上げ企画、開設意向も運営をサポート</li> <li>・屋台通りの人気店として成長をサポートしている。</li> <li>・次の段階として、CIP卒業後自身がどのような方向性を持つかを模索している。</li> </ul>		

E さん	都市と農村の課題を解決する農業関連CB(果樹栽培)	
	21年度末の状況	1
	22年度末の状況	2
<ul style="list-style-type: none"> <li>・21年度は起業構想をそれを明確化した。</li> <li>・22年度末時点においては、広がりはあるもののまずは事業化したい方向性を定め、起業にむけて準備を開始した。</li> </ul>		

CB・SBの進捗評価指標

1	起業への意志がある段階
2	起業する内容が決まった段階
3	具体的に起業準備している段階
4	起業・事業化した段階
5	経営や運営を経験した段階
5	成果が出た段階

### ③本プログラム実施に関与してきた自治体の意識や行動の変化

高崎および宇和島におけるC I Pの取り組みを通じた自治体の意識の変化や行動の変化について、「意識改革」、「新たな民間と公共との連携方法の構築」、「他地域間のネットワーク構築」という3点の視点より定性的に整理する。

自治体職員は、本プログラムにおいてコミュニティビジネスの現場を実習するというカリキュラムを体験したというものではないが、20代・30代の起業を目指す住民が、実際に地域に根ざした課題解決に寄与する新しい事業や小さなビジネスをゼロから立ち上げようと苦心している状況を体感してもらえることができた。また、こうした実感を伴う地域活性化の取り組みが、机上ではない今後の公共のあり方の参考になると考えられる。

#### ア) 意識改革・変化

コミュニティビジネス  
に対する理解浸透  
(変化したもの)

当初、地域の課題を解決するというコミュニティビジネスについて漠然としたイメージしかもっていなかった印象を受けるが、C I Pの活動を通じて、実感としてC Bへの理解が進んだと考えられる。

協働への意識と  
官民の役割分担  
(従来意識)

もともと高崎市では市民主体のイベント等が数多く開催されており、そこに市の立場で関わるという場面も多い。市民と一緒に行動するという認識はあり、このことが初めての取り組みであるC I P組成への理解にも繋がったと推測される。

#### イ) 新たな民間と公共との連携方法の構築

C I Pという  
連携方法への評価

これからの公共役割として、継続的に支援や補助をするのではなく、自立のためのきっかけづくりという新たな役割の事業について試行することで、新たな民間と公共の連携方法について情報収集ができたと考えられる。

民間と公共の距離間  
に関する課題

一方で、どこまで職員として踏み込んでいくのか、職員という立場で、民間が行う地域活性化事業にどこまで携わっていくかは模索している。

#### ウ) 他地域間のネットワーク構築

域外との人脈形成

C I P事業を通じて、シンポジウム等により全くこれまで出会わなかった地域活性化のキーマンとの出会いの場は創出されたと考えられる。よそ者が自分たちの地域を評価することで、誇りを実感するという体験もこれまで以上に得られたと考えられる。

他地域間のネットワー  
ク形成の難しさ

C I Pメンバーにおいては、プログラム内で他地域を訪問し、体感することで自分達の地域の良さを再認識する機会があるが、自治体職員の場合は視察や研修等が経費削減のおり減少という物理的な側面もあり、他地域を体感する機会が少なく、よりリアルなネットワーク形成が希薄。

## VI. 今後に向けて

---

C I Pは平成 23 年度に、一つの区切りを迎える。その後も継続していくことを目標としているため、平成 23 年度にどのような姿勢で動き、どのように実際に動いていくかは重要である。それらを検討する意味で今後に向けた課題を整理する。

### (1) 人材育成プログラム上の課題

#### ①地域人材の育成について

高崎C I PにおいてもUC I Pにおいても、採用した者の大半が結果的に 20 代、30 代の若い層の人材であった。これらを踏まえ、特に高崎C I Pにおいては外部の連携協力先に教育を任せるだけでなく、C I Pの社員として公の精神（自覚と覚悟）を備えさせる教育の必要性を痛感した。今回の活動が単なる民間企業に入社したのではなく、自分達の活動が高崎市、宇和島市への地域貢献に寄与するという点について常に考え、活動できる人材に育てあげることが重要である。こうした点を踏まえ、高崎C I Pでは平成 22 年度から週 1 回のミーティングや組合員による個別面談等により伝えてきているが、こうした意識は個人差があるため一律の教育プログラムでは困難な点が課題である。

#### ②雇用者の配置と情報共有の必要性について

当初、C I P構想の際、雇用者は外部連携協力先を数ヶ月単位で定期的に交代し、様々な受け入れ先を経験し、様々なノウハウや人脈等を得ていくという形式であった。しかし実際C I P事業を開始してみると、受け入れ先である外部連携協力先側の問題で、数ヶ月単位であっても研修する者が別の者になってしまうと、そのつど改めて一から仕事を指導する必要があることがネックとなった。立ち上げ時期の時間的な余裕をもっていない事業であることが多いためこれは効率的ではなく、現実的に難しいということがわかった。このため高崎C I Pにおいては平成 22 年度は基本的に担当を決め、サポートする事業が軌道にのるまでは同じ者が継続するが、他の雇用者も情報を共有しノウハウを得ていくために積極的に関わっていくという形態となった。さらに平成 22 年度の高崎C I Pとしては、自主事業としてできるだけ多くのイベントや店舗改装等の活動について、メンバー全員で実施したことが結果的に情報やノウハウ、意識を共有できた。

### (2) C I P運営上の課題

#### ①自主事業の立ち上げについて

現在のC I P事業は厚生労働省のふるさと雇用再生交付金を活用している。交付金は平成 23 年度で終了するため、その後、C I P機能が地域の中で自立化できるように資金の確保、自主事業等の立ち上げを行っていく。最終年度の平成 23 年度中に補助金に頼らない自主事業の可能性やその方法を模索していく。

#### ②運営側のモチベーションの維持と継続

C I Pの運営者は、主旨に賛同した地元の事業者であり、それぞれに本業を持っている。さらに、C I P以外にも地域活性化に資する活動を担う街のキーマンである。こうした方々がC I P事業として、本業に関係のない形で、人材を預かって、地域に寄与する人材として育成することはかなりのモチベーションを維持する必要がある。しかし、外部の者ではなく、こうした地域の事業者で構成されるC I P

運営側が公の精神を持って、それを維持し継続することが、C I Pの仕組みが地域に根付く際のポイントであることは必死であり、外部の者が担えない役割である。よりC I Pの仕組みを地域に根付かせていくにも重要であり、C I Pの仕組みを他地域に移転するに当たっても重要なポイントとなる。

### ③市民へのコミュニティビジネスの周知の難しさ

漸く一般にもコミュニティビジネスという手法が耳なじみのある言葉になってきたが、まだまだ多くの市民が実際にコミュニティビジネスを立ち上げたり、参加したりというムーブメントにまで至っていないのが現状である。

C I Pの存在意義として、小さくとも継続的に様々な形で市民の方にコミュニティビジネスに関する理解を促し、浸透させる活動を実施していく必要があるが、その方法を模索していく。

### ④支援するコミュニティビジネスと雇用者への評価等のブラッシュアップとその後の支援

外部連携受け入れ先について、どの程度までそのC Bが立ち上がったら雇用者を引き上げていくのか、また雇用者のC I Pからの自立のタイミングやその後のケア（資金や人材等）も検討していく必要がある。